

通信 建築科／建築士専科

- ・履修科目表
- ・卒業・進級要件
- ・履修判定試験および評価方法
- ・シラバス（授業概要）



学校法人 小山学園

専門学校 東京テクニカルカレッジ

・成績評価及び卒業要件

<履修評価（合否判定）の方法>

①科目の合否

本校では、科目の合否は原則的に履修判定試験のみでおこない、60%の理解度をもって合格とする。履修判定試験は「筆記試験」・「実習試験」でおこなわれるが、作品制作やレポートなど普段の授業の中でおこなわれる提出物の評価を履修判定試験内で評価することがある。その場合の評価の方法については、講義概要（コマシラバス）の中に明記される。

②未受験者・試験不合格者の処置

A：以下のものには追試をおこなう。

- 1.公認欠席（忌引き等）に該当する者が試験を受験しなかった場合。
 - 2.病気等で通院・入院・自宅安静をされており試験当日登校できない事由が証明できる者。
- 追試の時期は各科の科長が別途日程を定めて実施する。

B：試験に不合格になった学生及び正当な理由無しに未受験となった学生に対して、原則再試はおこなわない。ただし、不合格となった科目の単位数に応じた枚数のチケットを取得した上で、担当教員の補習授業が終了した者については、再試をおこなう。

チケットの取得方法に関しては、別途細則で定める。

③履修判定試験の運営

履修判定試験を受験しようとする者は試験会場に5分以上前に入室し、机上に学生証など身分を示す物を提示する。

試験会場では、試験監督官の指示に従って行動する。

試験開始後20分以上経過した場合には、その試験の受験資格を失う。

試験中に監督官から不正行為を指摘された場合には直ちに教室から退室する。この場合は当該科目を不合格とする。

<成績評価およびその客観的な指標について>

履修判定試験の結果が100点～80点のものをA（合格）、79点～70点のものをB（合格）、69点～60点のものをC（合格）、59点以下のものをD（不合格）として成績評価とする。

このA～Dの評価を、A = 3点、B = 2点、C = 1点、D = 0点として各科目の成績を点数化のうえ合計し、総科目数で割り指標数値を算出して各科の成績分布の指標とする。

<進級について>

①進級

進級学年の学生は「履修単位表」に記載された当該年度の履修科目を全て履修した場合に進級できる。

②準進級

進級学年の学生は「履修単位表」に記載された当該年度までの履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の単位数の合計が、「履修単位表」に記載された卒業までに履修しなければならない総単位数の2割を超えない場合は、次の学年に進級できるが、これを準進級とし進級者と区別する。

③留年

進級学年の学生は「履修単位表」に記載された当該年度までの履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の単位数の合計が、「履修単位表」に記載された卒業までに履修しなければならない総単位数の2割を超えた場合は留年となり、その年に取得した全ての単位が無効となり次年度同一学年で学習しなければならない。

④進級・準進級・留年の決定

進級・準進級・留年の最終判断は、進級公示前までに校長がおこない学籍に記録する。

<卒業について>

①卒業

「履修単位表」に記載された卒業に必要な履修科目を全て履修した場合に卒業できる。

②科目留年

卒業学年の学生は「履修単位表」に記載された卒業に必要な履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の単位数の合計が、卒業までに履修しなければならない総単位数の2割を超えない場合は、科目留年となる。

科目留年となった場合は、それまでに取得した全ての科目の単位数はそのままとなり、不合格となった科目のみ次年度再履修することで卒業することができる。

科目留年における在籍料・科目履修費用などを含めた事務的な手続きは別途細目で定める。

③留年

卒業学年の学生は「履修単位表」に記載された卒業に必要な履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の単位数の合計が、卒業までに履修しなければならない総単位数の2割を超えた場合は留年となり、その年に取得した全ての単位が無効となり次年度同一学年で学習しなければならない。

準進級者が留年した場合でも、準進級の原因となった当該年度以前に未履修となった科目について、当該科目の再履修免除はない。

④卒業・科目留年・留年の決定

卒業・科目留年・留年の最終判断は、卒業公示前までに校長がおこない学籍に記録する。

履修科目履修単位表 通信 建築科 1年次
 2026年度入学生用
 東京テクニカルカレッジ

| 分類大 | 番号 | 必修選択 | 教育科目名 | 単位数 | 実務経験※1 | 備考 |
|----------|----|------|---------|-----|--------|----|
| 講義・演習科目 | 01 | ◎ | 建築概論 | 2 | ○ | |
| | 02 | ◎ | 建築計画1 | 2 | ○ | |
| | 03 | ◎ | 建築史 | 2 | ○ | |
| | 04 | ◎ | 建築設備1 | 2 | ○ | |
| | 05 | ◎ | 構造力学1 | 2 | ○ | |
| | 06 | ◎ | 建築一般構造1 | 2 | ○ | |
| | 07 | ◎ | 建築一般構造2 | 2 | ○ | |
| | 08 | ◎ | 建築材料 | 2 | ○ | |
| | 09 | ◎ | 建築施工1 | 2 | ○ | |
| | 10 | ◎ | 建築法規1 | 2 | ○ | |
| 実習・実験科目 | 01 | ◎ | 建築設計実習1 | 1 | ○ | |
| | 02 | ◎ | 建築設計実習2 | 2 | ○ | |
| | 03 | ◎ | 建築設計実習3 | 1 | ○ | |
| | 04 | ◎ | 建築設計実習4 | 1 | ○ | |
| | 05 | ◎ | 建築製図実習1 | 1 | ○ | |
| | 06 | ◎ | 建築製図実習2 | 1 | ○ | |
| | 07 | ◎ | 建築製図実習3 | 2 | ○ | |
| | 08 | ◎ | 建築製図実習4 | 2 | ○ | |
| 総必要履修単位数 | | | | 31 | | |
| 選択科目単位数 | | | | 0 | | |
| 総単位数 | | | | 31 | | |

◎…必修科目(当該学科の全学生が卒業までに必ず履修しなければならない科目)
 ○…選択必修科目(一群の選択科目の中から指定された科目数を選択して履修しなければならない科目)
 △…選択科目(学生が任意に選択して受講することができる科目)
 ※卒業に必要な履修単位数は「総必要単位数」欄に示された数である。
 ※1…実務経験ある教員担当科目

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356.建築科 専門士コース | 必要性: これから学ぶ建築に関する各分野の基礎知識(計画、環境・設備、法規、構造、施工など)について、全体を俯瞰して概観し、効果的な学び方を身につける必要があります。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 建築業界の全体像を概観し、業界で活躍するために必要な資格を把握するとともに、それらの資格を取得するための学修について考えます。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築概論 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築概論 | 01) 建築業界とそこで活躍するための資格、その資格を取得するための学修について把握する |
| 単位 | 1 | 02) 建築の歴史、その時代の社会性や歴史、思想、技術について学ぶ |
| 履修時間 | 30 | 03) 人体を基準とした単位や動作空間、計画する上での基本的な考え方がわかる |
| 回数 | 15 | 04) 実施設計に求められる項目(意匠図・構造図・設備図など)がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 建築物を構成する各種材料の種類と特長について体系的にわかる |
| 省庁分類 | 20.②建築計画 | 06) 各種構造形式の違いや特徴を理解する |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 衛生・空調・電気の3分野について理解を深める |
| 作成者 | 白石越郎 | 08) 工事監理と工程管理を知り、工事の流れを知り、監理と管理の違いがわかる。 |
| 教科書 | プロセスでわかる 住宅の設計・施工 | 09) 建築に求められる安全な構造のための基礎的な力学がわかる |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建ぺい率・容積率・道路や斜線制限などの基礎的な法規を理解する |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務で必要な実施設計・施工管理技術を教える必要があり、実施設計・施工管理経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356.建築科 | 必要性: 建築の分野では立体物を平面上に表したり・逆に平面的な図面から立体物を読み取ることが建築技術者の基礎になります。正しい製図法を理解し適切な図面を描き分ける技術、図面を読み取る知識はとも重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 手描き製図の道具の正確な使い方、製図法を学習します。立体物を展開図や透視図を描きながら理解を深め、階段の作図や模型の作成を通じてより建築的な作図を学習します。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習I | 01) 平行定規・勾配定規、シャープペンシルなど製図道具を正しく使用できる。 |
| 単位 | 1 | 02) 三角スケールをもちいて尺度のある図面から正確な寸法がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 立体物を把握し三面図を作図できる。 |
| 回数 | 15 | 04) 立体物を把握し展開図を作図できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 立体物を把握し断面図を作図できる。 |
| 省庁分類 | 32.⑩その他 | 06) 展開図より立方体の模型を作成できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) アクソメトリックとアイソメトリックの違いが分かり、描き分けることができる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 08) 1点透視図法を知り、簡単な図形を1点透視図法で作図できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト/建築製図基本の基本 | 09) 2点透視図法を知り、簡単な図形を2点透視図法で作図できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記と実技試験による履修判定試験により【60点】+課題提出による習熟度チェックにより【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ①② | |
| 備考 | 実務で必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356.建築科 専門士コース | 必要性: 建築の分野では図面が共通の言語であり、正確に読み取り・作図できることが重要です。現在はCADを用いたデジタル製図が一般的であり、CADを道具として使いこなせることが建築業界では重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 前半ではAutoCADの基本操作を前半で学び、後半では実際に木造住宅平面図のコピー課題を通して建築製図の基礎知識と木造住宅のルール、図面の読み取り方など建築製図の基礎知識・基礎技術を学びます。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習I | 01) AutoCADの座標概念と作図空間の概念がわかる。 |
| 単位 | 1 | 02) 基本コマンドとその使い方がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) AutoCADのレイヤの概念がわかり、線の色、線の種類、線の太さの関係がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) CADによる効率的な作図方法を体験し、手描き製図には無い作図の特長をとらえる事ができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) CADで使われた色と印刷時の太さの関係がわかり、正しい表現で平面図が印刷できる。 |
| 省庁分類 | - | 06) |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) |
| 作成者 | 野上 和裕 | 08) |
| 教科書 | 基礎から学ぶ建築CAD/建築製図基本の基本/図と模型でわかる木構造 | 09) |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記と実技試験による履修判定試験により【90点】+課題提出による習熟度チェックにより【10点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ① | |
| 備考 | 実務で必要なCAD製図技術を教える必要があり、CAD製図経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356.建築科 専門士コース | 必要性: 建築業界に携わるものとして、寸法の知識、身体スケール、モジュール、人体行動の知識、動作空間など、寸法を意識的に観察し体験的に覚え、諸室に求められている機能を知ることが建築技術者としてとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 寸法の歴史を知り、モジュール体験を知ること共に、各所差の必要な機能と大きさを学びます。図面を見るだけでなく実際に計測することで、体験的に寸法を身に付けるように学習します。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築計画 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築計画I | 01) 建築計画に用いる寸法の種類、成り立ちを知り、それぞれの意味・違いがわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) ソーニング、動線とは何なのか違いがわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 長い建築寿命の経済的仕組みを知り説明できる。 |
| 回数 | 15 | 04) 現在まで続いて来た寸法のシステム(規格)を知り日常的に読み解くことができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 教室実測し、寸法を確認しながら作図できる。 |
| 省庁分類 | 20.②建築計画 | 06) 実測した図面から、必要な計算(高さ・面積など)ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 独立住宅の中で室と動線がどの様に計画されているのかを図面から読み取り、説明できる。 |
| 作成者 | 矢原 奈奈 | 08) 独立住宅の歴史的な作品と読み取り、特徴を説明できる。 |
| 教科書 | やさしい建築計画 | 09) 独立住宅の工法の種類を知り、どれが用いられているのかの判断ができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 集合住宅の特徴を把握する |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ④ | |
| 備考 | 実務で必要な設計・計画技術を教える必要があり、設計経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。安全で強固に建物を建てるために、各種構造種別の特徴を理解し最適な工法を知ることとはとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築一般構造 | 学習内容: 最初に、各種構造を学んでいく際に必要となる「基本的な言葉の意味」を学びます。その上で、各種構造の一つ目となる木質構造について、材料、接合部、構造概要など詳しく学んでいきます。 |
| 科目名 | 建築一般構造1 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 建築物を構成している要素がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 建築物に作用する外力と、その外力に対してどのような仕組みで耐えているのかわかる。 |
| 回数 | 15 | 03) 木質構造の概要と木質構造の種類がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 木材及び木質材料の材料特性がわかる。 |
| 省庁分類 | 24. ⑥建築一般構造 | 05) 木材の接合方法(継手、仕口)とその性能がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) 軸組の全体像と、各部位の名称がわかる。 |
| 作成者 | 清孝英 | 07) 小屋組の全体像と、各部位の名称がわかる。 |
| 教科書 | 初學者の建築講座 建築構造 | 08) 基礎の種類とその特徴がわかり、構造図から、どのような基礎であるか判断できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 地層の種類とその特徴がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 地盤調査の種類とその目的がわかり、その概要が説明できる。 |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | ④ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 実務で必要な木造技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となるもので、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとも重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 学習内容: 各部屋の寸法や機能を学習し必要な要素を適切に配置できることを目標に設計を学び、小規模な木造住宅の設計を行います。住宅を適切な表現方法により作図し、相手に自分の考えを伝えるためにまとめ上げます。 |
| 科目名 | 建築設計実習2 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) エスキースの意味と線の強弱を描き分けることができる。 |
| 履修時間 | 60 | 02) トイレを題材に部屋の計測を学び、設計において必要な寸法を見つけ出し測ることができる。 |
| 回数 | 30 | 03) トイレ・浴室・洗面脱衣室の基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 玄関・キッチン・寝室・クローゼットの基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 05) 階段の名称・寸法・形状を知り適切な階段の設計ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 06) 書斎・リビング・ダイニング・吹き抜けの基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 07) 駐車場・玄関アプローチなど外構の要素・寸法・繋がりを理解し、設計できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト | 08) 適切な寸法・室名の記入が行え、面積表など必要な書き込みを行いエスキース図面として作図できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 高さ関係の寸法を理解し、立面図・断面図を作図することができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | ③④ | 筆記試験による履修判定試験により【50点】+毎週の課題提出により【20点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 設計者として設計意図を建築に係わる人(施工・施工者など)に正確にわかりやすく、より魅力的に伝えることが求められます。そのためのCAD技術が必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 学習内容: AutoCADを主軸とし住宅の3次元表現を学びます。後半ではLayout等を使用し製図の為の技術や相手に見せることを意識したレイアウトを学習します。 |
| 科目名 | 建築製図実習2 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 1 | 01) 立体空間(幅、高さ、奥行き)がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) プリミティブを使用した基本操作ができる。 |
| 回数 | 15 | 03) 寸法を意識したエンティティを作成できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 配布図面を用いて、室内空間を作成することができる。 |
| 省庁分類 | - | 05) 配布図面を用いて、住宅の外観と内観のバースを作成することができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 06) エクステリアとインテリアを自分のプランとして簡易的ではあるがコーディネートすることができる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 07) プレゼンテーションボードを作成し、人へ伝える為の基本を習得することができる。 |
| 教科書 | 基礎から学ぶ建築CAD/建築製図基本の基本 | 08) |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | ①②④ | 筆記試験による履修判定試験により【60点】+毎週の課題提出により【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 実務で必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となるもので、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとも重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 学習内容: 前期の計画的要素に構造・法規の要素を追加して設計を行います。100㎡規模の設計課題に取り組み、様々な条件による住宅を提案し、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。 |
| 科目名 | 建築設計実習3 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 1 | 01) 住宅の必要諸室の一般サイズがわかり、構造を意識した柱・部屋の配置ができる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 住宅の必要諸室の用途がわかる程度の家具・設備を適切なサイズで作図できる。 |
| 回数 | 15 | 03) 面積計算(敷地面積・建築面積・床面積・延べ面積・建築率・容積率)ができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 斜線制限(道路・隣地・北側)を理解し、建てること可能な範囲を割り出すことができる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 05) 設計課題1: 斜線制限を意識した木造2階建て住宅を提案できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 06) 設計課題2: 高低差のある敷地における木造2階建て住宅を提案できる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 07) 設計課題3: 旗竿敷地における、販売を意識した高級木造2階建て住宅を提案できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト | 08) スタディモデルを作成し、屋根や開口部の検討を行い、図面へのフィードバックができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 設計趣旨やイメージなど他人に正確に伝えるためにまとめ表現できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | ③④ | 筆記試験による履修判定試験により【50点】+毎週の課題提出により【20点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356.建築科 専門士コース | 必要性:設計者として設計意図を建築に係わる人(施主・施工者など)に正確にわかりやすく、より魅力的に伝えることが求められます。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容:中規模の木造住宅を題材にした図面を基に、AutoCADによる表現をA3 1枚にまとめ、人に正確に魅力的に伝える手法を学びます |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習3 | 01) 平面図などを読み取り、断面図が作図できる |
| 単位 | 2 | 02) 断面図の外構と文字記入ができる |
| 履修時間 | 60 | 03) 断面図での寸法記入ができる |
| 回数 | 30 | 04) 屋根勾配の作成と切断位置がわかる |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 立面図の説明と他図面を利用した作図方法がわかる |
| 省庁分類 | | 06) 立面図での開口部と外壁面の仕上げが描ける |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 展開図の理解と作成方法がわかる |
| 作成者 | 野上和裕 | 08) 展開図の室内表現が描ける |
| 教科書 | 基礎から学ぶ建築CAD/建築製図基本の基本 | 09) |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【60点】+毎週の課題提出により【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (2)(4) | |
| 備考 | 実務に必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|----------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356.建築科 専門士コース | 必要性:「建築設備」には、給排水・衛生設備、空調設備、電気設備などがあります。建築を計画するうえで「建築設備」は居住・利用する人にとって快適で利便性の高い生活環境を求めするために必要不可欠なものです。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容:「建築設備1」では、給排水・衛生設備、空調を中心に、建築計画する上で必要な給水設備、給湯設備、排水・通気設備、衛生器具設備、空調設備に関する知識について学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築設備 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設備1 | 01) 建築設備とは何か、建築設備の種類がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 給排水・衛生設備で取り扱う水の基本的な性質がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 給水設備計画で知っておくべき、給水方式、汚染防止、機材などがわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 排水・通気設備計画で知っておくべき、排水の種類、排水方式、トラップ、阻集器の役割などがわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 衛生器具設備(水受容器、給水器具、排水器具など)の種類がわかる。 |
| 省庁分類 | 22.④建築設備 | 06) ガス設備における都市ガスと液化石油ガス(プロパンガス)の特徴がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 空調負荷の種類や顕熱負荷・潜熱負荷がわかる。 |
| 作成者 | 加藤諭 | 08) 空調負荷計算の方法がわかる。 |
| 教科書 | 図説建築設備の知識 | 09) 冷媒方式の種類と特徴がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 配管設備やダクト設備の概要がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (4)(8)(9) | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356.建築科 専門士コース | 必要性:建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れるしておく必要があります。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容:法令集を熟読するための原則と調べ方の手順を理解し、「建築基準法」のうち「全体構成」「用語の定義」「面積(建蔽率・容積率)・高さの定義」「道路」「用途地域」を取り上げ、概要の理解と関連条文を調べられるように学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築法規 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築法規1 | 01) 建築関係法令にはどのような法が掲載されているのか、その概要がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 「法律・政令・省令」の関係がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) どの条文でも、それが「第何条・第何項・第何号」かを言うことができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 「または・かつ・いずれか」「以上・以下・超える・未満」などの意味を正しくとらえることができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 建築基準法の「用語の定義」の各項目について、正しい解釈がわかる。 |
| 省庁分類 | 28.⑨建築法規 | 06) 建築基準法の「面積・高さの定義」の各項目について、正しい解釈がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 建築基準法の「建蔽率」について、この規定の意味と、基本の考え方がわかる。 |
| 作成者 | 佐藤智博 | 08) 建築基準法の「容積率」について、この規定の意味と、基本の考え方がわかる。 |
| 教科書 | 建築関係法令集 | 09) 建築基準法の「高さ制限」のうち「道路斜線制限・隣地斜線制限・北側斜線制限」についてわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建築基準法の「用途地域」について、なぜこれらの規定があるのかと、別表2の読み取り方がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【82点】+毎週の課題提出により【18点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (4)(7) | |
| 備考 | 建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356.建築科 専門士コース | 必要性:建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。安全で強固に建物を建てるために、各種構造種別の特徴を理解し最適な工法を知ることがとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容:コンクリートはそれが実現できる建物規模に対して、比較的安価な材料であるといわれていますが、ひび割れ等の不具合も発生します。鉄筋コンクリート構造の特徴とメリット・デメリットについて学んでいきます。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築一般構造 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築一般構造2 | 01) 鉄骨構造の材料的発展及び構造計画の発展の歴史がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 鉄骨構造における各種構造形式がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 鉄骨構造のメリット・デメリットがわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 鋼材の種別や機械的性質の違いがわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 基準強度、許容応力度、降伏強度、引張強度、ヤング係数といった言葉の意味がわかる。 |
| 省庁分類 | 24.⑥建築一般構造 | 06) 鉄筋コンクリートの発生から現代までの歴史がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 鉄筋コンクリート構造の特徴とメリット・デメリットがわかる。 |
| 作成者 | 清孝英 | 08) 鉄筋コンクリート構造の形式の種類が判別できる。 |
| 教科書 | 初学者的建築講座 建築構造 | 09) 鉄筋コンクリートを構成する材料がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) コンクリートの種類と、それぞれの注意点がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務に必要な鉄筋コンクリート造技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとも重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 学習内容: 二級建築士の木造課題の範囲を理解し、要求図面を過不足なく設計・製図することが重要であり、時間管理と共に課題に合わせた回答を描き切る練習を行い、二級建築士実技試験に対応します。 |
| 科目名 | 建築設計実習4 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 1 | 01) 二級建築士の実技試験のルールを知り、求められる範囲がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 二級建築士の実技試験の課題の種類に対して、描き上げる図面の範囲がわかる。 |
| 回数 | 15 | 03) 課題文から求められている条件を元に、エスキースにて住宅の大きなサイズがわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 各階平面図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 05) 立面図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 06) 短計図(又は断面、部分詳細)に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 07) 2階床伏図・1階小屋伏図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト | 08) 面積を正確に計算し、面積表が作成できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 計画の要点を整理、設計趣旨を所定の欄に指定された文字数の範囲で表現できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 時間管理を自分でを行い、ペース配分の過不足を自分で判断できる。 |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | ③④⑤⑦ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+毎週の課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|-------------------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築に関わる者として、建設現場における4大任務(品質管理・原価管理・工程管理・安全衛生管理)の意味を理解し、実社会での管理の在り方を知ることとはとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 建築施工 | 学習内容: 4大任務の各内容の概要から一歩踏み込んだ所までを学びます。建設現場では日々どのような事を行い、どんな事に気を付けて管理をしなければいけないかを理解するための順序立てて学習します。 |
| 科目名 | 建築施工1 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 品質管理の目的・管理手法・品質管理の7つ道具がある事がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) P D C Aサイクルの意味・活用方法がわかる。 |
| 回数 | 15 | 03) 原価管理の目的・出来高と進捗度の関係がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) ゼネコンとサブコンとの間で取り交わしをする書類についてがどのようなものがあるのかわかる。 |
| 省庁分類 | 34. ⑧建築生産 | 05) 工程管理の重要性・マイルストーンの押え方・原価管理との関係性がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) ネットワーク工程表の読み取り方・作図方法を学び、ネットワーク工程表を読み解くことができる。 |
| 作成者 | 杉本安雄 | 07) 建設現場における安全管理の重要性・その他の項目との関係性がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築施工 | 08) K Y K・T B M・新規入場者教育等、建設現場における安全管理の手法がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 一般建設業・特定建設業など、建設業法で定められる建設会社の制限・資格について違いがわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) モチベーション・モラル等、4大任務に追加する考えの「M」の内容・考え方がわかる。 |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | ④⑥ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築設計において、適切な材料を適切な部位に採用するためには、材料の美観性のみならず、物理的性能・性質についても正確な知識が必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 建築材料 | 学習内容: 建築材料1では、建築の主要構造部を担う3大材料である木、コンクリート、鉄の基礎的知識について学びます。内外装材料の選択において、床・壁・天井とそれぞれの部位における材料の種類とその特徴を理解し、さらにはそれらの下地も含めた取り付け方法について学びます。 |
| 科目名 | 建築材料 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 木材及び木質構造の特徴がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 樹木の種類や主な用途、注意点がわかる。 |
| 回数 | 15 | 03) 木材の基本的性質(乾燥・収縮・変形・可燃)や物理的性質がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) コンクリート及び鉄筋コンクリート構造の特徴がわかる。 |
| 省庁分類 | 25. ⑦建築材料 | 05) コンクリートを構成する材料及びコンクリートの種類がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) 断熱に対する要求性能に対しての適切な材料選定ができる。 |
| 作成者 | 又野寛子 | 07) 防火に対する要求性能に対しての適切な材料選定ができる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築材料 | 08) シックハウス対策における注意点がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 開口部材の各部位の名称がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 実務に必要な仕上げ材に関する知識・施工技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|---------------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとも重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 構造力学 | 学習内容: 構造力学1では、基本的な構造力学の考え方と、構造物や力の表現方法を学び、建築構造力学の共通言語を習得し、「モーメント」、「力の分解・合成」、「力の釣り合い」の計算方法を学習。後半から構造物内部に発生する「断面力(応力)」について学習します。 |
| 科目名 | 構造力学1 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 力学の必要性を理解し、構造物に加わる荷重の種類がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 構造物を部材と節点に分解し荷重図としてモデル化できる。 |
| 回数 | 15 | 03) 「安定構造物・不安定構造物」「静定構造物・不静定構造物」の違いを理解し判別式より判別できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 荷重・力を理解し「ベクトル」として表現でき、作用点に発生するモーメントがわかる。 |
| 省庁分類 | 23. ⑤構造力学 | 05) 荷重の位置、作用する位置を正確に把握し、作用点に発生するモーメントがわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) 「力の合成・分解」を図により求め、適切な大きさ・方向・位置の「合力・分力」がわかる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 07) 「力のつり合い条件式」を理解し、つり合うために必要な力がわかる。 |
| 教科書 | 建築構造力学 新版(初学者の建築講座) | 08) 構造物内に発生する断面力(応力)の種類がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 断面力(応力)の正負の方向性を理解し、構造物内の力の流れがわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 荷重図より、応力図(軸方向力・せん断力・曲げモーメント力)を作図できる。 |
| 実務教員 | - | 評価方法 |
| 該当DP | ④ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 303. 建築科 | 必要性: 設計者として設計意図を建築に係わる人(施主・施工者など)に正確にわかりやすく、より魅力的に伝えることが求められる。そのために立体表現やボードへのまとめの技術が必要。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 前期に設計した「住宅」を、敷地に対する全体計画、前面道路の扱い、住戸をはじめ専有部等複数の人が関わる部分を明確に分け表現する手法を学びます |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習4 | 01) 1期課題の整理と各自の図面のチェックを行い、構造・法規ともに適切かどうか判断できる。 |
| 単位 | 2 | 02) 設計条件・敷地条件を整理し、コンセプトの合わせたレイアウトとなるように仮レイアウトが作成できる。 |
| 履修時間 | 60 | 03) 各種図面を適切な縮尺でレイアウトし、仮印刷し、図面尺度が適切かどうか判断できる。 |
| 回数 | 30 | 04) 基礎周辺～1階床の部材を矩計図に求められる内容として作図できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 1階天井～2階床の部材を矩計図に求められる内容として作図できる。 |
| 省庁分類 | | 06) 2階天井～屋根の部材を矩計図に求められる内容として作図できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 切断壁や切断建具を矩計図に求められる内容として作図できる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 08) 矩計図に求められる寸法・文字情報を過不足なく記入できる。 |
| 教科書 | - | 09) 矩計図の役割を知り、必要な描き込み量が変わる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 棟矩計図としての作図範囲とその意味がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【60点】+最終完成作品の提出により【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務に必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。 | |

一級建築士科目

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 各公共施設の概要・歴史的背景、具体的な適用内容等の知識を身に付けることは、建物の計画・設計のみならず、将来の「現場監督」の基本的な教養・基本知識として関連業種を業務を円滑に進める上で重要。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: テキスト、パワーポイント資料を活用しながら、各「(公共)施設の概要」構成・施設の運用方法等を解説し、授業の最後には、カルテによって基本的な知識の習得を確認します。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築計画 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築計画2 | 01) 現在建設が進む公共建築(施設)には、どのようなものがあるのかわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 「事務所ビル」や公共建築物が発展してきた歴史的背景、基本計画・各部設計の概要がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 「劇場、コンサートホール」の種類や構成内容がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 「商業施設」、「ホテル等の宿泊施設」の計画概要、各部計画の内容がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 「博物館・美術館」の構成内容がわかる。 |
| 省庁分類 | 20. ②建築計画 | 06) 「病院等の医療施設」の構成内容がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 「高齢者施設」の種類とその内容がわかる。 |
| 作成者 | 矢原奈弥 | 08) 「都市計画」における住宅地の計画についてわかる |
| 教科書 | やさしい建築計画 | 09) 「都市計画」における住宅地でのコミュニティ計画についてわかる |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 「都市計画」における都市交通計画について理解する。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務に必要な設計・計画技術を教える必要があり、設計経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となるもので、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとて重要。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 1年次に学習した木造住宅をベースにRC造の集合住宅の設計を行います。500㎡から1500㎡規模の集合住宅の設計課題に取り組み、共用部を意識した提案を行い、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習5 | 01) 鉄筋コンクリート構造を理解し、柱・梁のラーメン構造の仕組みがわかる。 |
| 単位 | 1 | 02) ラーメン構造と壁式構造の違いを理解し、適切な構造を選択できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 基本スパンより、柱・梁の断面を求められ、適切なスラブ厚がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 主要構造部材の存在を理解し、EVやボイド等作ることができない場所を判断できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 住戸計画より、適切なスパンを選択し、住戸・住棟の面積を算出できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 06) 廊下・バルコニー・遊廊、その他共有部を理解し、適切な寸法・距離を確保して設計できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 水回り、MB、PS、設備空間を理解し、無理のない寸法で設計できる。 |
| 作成者 | 佐藤剛 | 08) 集合住宅の敷地内に求められる、駐輪・駐車・ゴミ置き場等分離を意識し適切な数量で設計できる。 |
| 教科書 | 建築設計テキスト 集合住宅/設計資料作成 | 09) 課題1. 賃貸集合住宅+(クライアントの)住宅を設計し、各種図面を作図し、提案できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 課題2. 賃貸集合住宅を設計し、各種図面を作図し、提案できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+毎週の課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 鉄筋コンクリート造の設計の実務経験がある教員が、鉄筋コンクリート造に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|-------------------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 施工管理の面で、「防水工事」や「仕上工事」は、その内容が複雑で細心の注意を必要とするものであり、現段階でその概要や基礎的な知識を身に付けることは、今後の学習の理解を深める上でも非常に重要。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: パワーポイントで作成された資料を基本として、各工事の概要・具体的な内容を解説すると共に、実際の現場でそれら各工事がどのような流れで計画され、施工されるのかを確認していきます。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築施工 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築施工2 | 01) 「屋上・防水工事」の種類や各工法がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 「屋根工事」の種類や各工法がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 実際の工事現場で、「仕上工事」が時系列的にどのようなタイミングで施工されるのかわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 施工管理業務の中で、「仕上工事」の重要性がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 塗装、金属、内装、石・タイル工事等の「各仕上工事」の概要と詳細項目がわかる。 |
| 省庁分類 | 34. ⑧建築生産 | 06) 他工種(設備工事等の関連工事)との関係性がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 「仕上工事」に関する現場での課題(問題)がわかる。 |
| 作成者 | 杉本安雄 | 08) 「設備工事」についての概要がわかる。 |
| 教科書 | 初學者の建築講座 建築施工 | 09) 「メンテナンス」や「瑕疵担保」に関する内容(概要)がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておく必要があります。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 前半では建築物の防火・耐火に関する規定を、後半は「居室」に関する事項など小規模建築物にも適用される規定を取り上げ、それぞれ概要を理解するとともに、法令集で関連条文を調べることができるように学習します。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築法規 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築法規2 | 01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。 |
| 単位 | 2 | 02) 建築基準法の「耐火・防火」については複数の規定があり、重複する場合は厳しい方に従うことがわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 建築基準法の「防火地域・準防火地域」に関する規定について、集団規定であること及びこの規定の意味がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 建築基準法の「耐火建築物等とすべき建築物」に関する規定について、単体規定であること、この規定の意味及び全体像がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 建築基準法の「地階の居室」「昇降」「天井の高さ」「床の防湿」「階段」に関する規定について、それぞれの規定の概要及び基本の考え方がわかる。 |
| 省庁分類 | 28. ⑨建築法規 | 06) 建築基準法の「確認申請」「中間検査」「完了検査」及び「建築主事」「指定確認検査機関」の意味とそれぞれの関係がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 建築基準法上、確認済証の取得が必要かどうかを判断ができる。 |
| 作成者 | 佐藤智将 | 08) 建築基準法の「構造強度」に関する規定については、全体構成、概要、及び基本の調べ方がわかる。 |
| 教科書 | 建築関係法令集 | 09) 建築基準法の「構造強度」に関する規定のうち「基礎」については、「基礎」の項目のほかに「鉄筋コンクリート造」の項目も合わせて調べることができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建築基準法の「構造強度」に関する規定のうち「構造計算」の各項目について、それぞれの概要、及び原則・主な例外の読み取り方がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【82点】+毎週の課題提出により【18点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (4)(7) | |
| 備考 | 建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 設計者において、施工まで考えた図面とは異なり細かな表現が必要です。BIMの技術は立体的なモデルと同時に整合性の取れた図面が仕上がりがより実務的なCAD製図であり、その知識技術は技術者として必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 前期に学習した内容を活用し、建築製図実習⑧にて設計したオフィス建築を題材にモデリング・設計図面への作り替えを行い、短時間で設計・製図技術の向上を目指し学習します。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習5 | 01) 設計条件を敷地条件を整理し、モデリングが始められるようにデータ整理ができる。 |
| 単位 | 1 | 02) AutoCADにて、基本的な情報を作図し、モデリングの元のデータを簡単に作図できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) Revitでモデリングするための準備(敷地・通り芯・外壁・界壁・間仕切り壁・建具)ができる。 |
| 回数 | 15 | 04) Revitでモデリング(レベルの作成・2Dデータの挿入・各部分のモデリング・グループ化)ができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) Revitでモデリング(各部分の確認・修正・編集・設定)ができる。 |
| 省庁分類 | - | 06) Revitでプレゼンテーション(マテリアル)の設定ができる。 |
| 授業形態 | 演習 | 07) Revitでプレゼンテーション(方角・場所・太陽)の設定ができる。 |
| 作成者 | 野上和裕 | 08) Revitでプレゼンテーション(パースビューの作成)の設定ができる。 |
| 教科書 | はじめてのRevit&Revit LT | 09) Revitでプレゼンテーション(家具を配置したショットパース)の設定ができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) Revitでプレゼンテーション(3Dビューを利用した外観パース)の設定ができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+モデリング課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実施設計の実務経験がある教員が、図面とBIM技術の活用と実務的テクニックを教える。 | |

一級建築士科目

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておく必要があります。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 「建築基準法」のうち、各種手続きに関わる「確認申請・中間検査・完了検査」「報告」「届出」や、「建築基準法以外の主な法」を取り上げ、概要を理解し、法令集で関連条文を調べることができるように学習します。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築法規 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築法規3 | 01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。 |
| 単位 | 2 | 02) 建築法規1、建築法規2の学習内容を振り返り、建築士試験の応用的問題が解けるようになる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 建築士法について、建築士と建築士事務所の業務等についてわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 都市計画法における、開発行為の許可、建築の許可、都市計画の手続きなどについて知る。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 消防法における、防火対象物、消防設備についてわかる。 |
| 省庁分類 | - | 06) バリアフリー法について特定建築物の建築主などの基準適法義務などわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 建築物省エネ法における建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律について知る。 |
| 作成者 | 佐藤智将 | 08) 耐震改修促進法について所有者の努力義務等、指導・助言・指示などについて知る。 |
| 教科書 | 建築関係法令集 | 09) 品格法における、住宅性能評価、瑕疵担保責任の特例、紛争処理などについて知る。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) その他の関係法令(建設業法、景観法、宅地造成および特定盛土等規制法、都市緑地法など)についてわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となるもので、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: S造によるオフィス設計を行います。中規模から大規模の設計課題に取り組み、コア・共用部・賃貸部を収益率を意識した区分けを行い、実用的な提案を行い、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習6 | 01) 鉄骨造を理解し、柱・梁のラーメン構造の仕組みがわかる。 |
| 単位 | 1 | 02) 基本スパンより、柱・梁の断面を求められ、スラブ・外壁の取り付け方がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) オフィス建築の性能が多様スタイルにたええられるフレキシブル性など求められる性能がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) オフィス建築の一般的なタイプ(コアの考え方)やレントラブル比を求め、適切かどうか判断できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) オフィス建築の利用者の種類を知り、複数動線を考え、適切かどうか判断できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 06) オフィス建築に対してバリアフリー、ユニバーサルデザインの活用を考え、適切かどうか判断できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) オフィス建築の長期利用やメンテナンスを意識し、提案が適切かどうか判断できる。 |
| 作成者 | 佐藤剛 | 08) オフィス建築の非常時の安全性を意識し、避難経路などが適切かどうか判断できる。 |
| 教科書 | - | 09) 課題1. 中規模オフィス建築を設計し、各種図面を作図し、提案できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 課題2. 店舗併用の大規模オフィス建築を設計し、各種図面を作図し、提案できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+毎週の課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 設計の実務経験がある教員が、複合建築に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|-----------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 「建築設備」には、給排水・衛生設備、空調設備、電気設備などがあります。建築を計画するうえで「建築設備」は居住・利用する人にとって快適で利便性の高い生活環境を求めるために必要不可欠なものです。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 本講義では、「建築設備の概要」から「給排水衛生設備」、「空調設備」、「電気設備」について、建築技術者として、建築の計画・設計、施工を行う上で必要な知識を学んでいきます。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築設備 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設備2 | 01) 事務所ビルの建築設備、戸建住宅と集合住宅の建築設備の違いを区別することができる。 |
| 単位 | 2 | 02) 地球温暖化の主原因であるCO2の排出量について、部門別について考えることができる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 戸建て住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 集合住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 戸建て住宅の空調設備・換気設備を計画することができる。 |
| 省庁分類 | 22.④建築設備 | 06) ビルの空調設備の主な空調方式とその特徴がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) ビルの空調設備の系統図・ダクト図・配管図・機械室ダクト図等を理解し説明することができる。 |
| 作成者 | 加藤諭 | 08) 建物内の受変電設備の仕組みを理解することができる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築設備 | 09) 建物内の電気幹線設備・動力設備の特徴を理解することができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建物内の自家発電設備・蓄電池設備・照明設備・コンセント設備の特徴がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|-----------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 構造力学3では、様々な静定構造物に発生する反力より、応力を求め応力図を正確に描けるように繰り返し練習します。後半では静定トラス構造を学び、トラス構造における力の流れを理解します。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 構造力学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 構造力学2 | 01) 建築構造物を構造計算を行うために、正確にもモデル化できる。 |
| 単位 | 1 | 02) 静定構造物をつり合い条件式を用いて、反力計算ができる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 静定構造物の反力を元に、正確な荷重図作成ができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 静定構造物の荷重図より、各応力図(N図、Q図、M図)が作成できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) せん断力図(Q図)より、柱・梁においてせん断力が最も発生しているの位置がわかる。 |
| 省庁分類 | 23.⑤構造力学 | 06) 曲げモーメント力図(M図)より、柱・梁において引張力が最も発生しているの位置・側がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) トラス構造の条件・構造のモデルがわかる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 08) トラス構造の種類・特性がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築構造力学 | 09) トラス構造物を節点つり合い法を用いて、力の流れを求め、部材の軸方向力と圧縮/引張の判断ができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) トラス構造物をリッターの切断法を用いて、力の流れを求め、部材の軸方向力と圧縮/引張の判断ができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 設計者において、施工まで考えた図面とは異なり細かな表現が必要です。BIMの技術は立体的なモデルと同時に整合性の取れた図面が仕上がりがより実務的なCAD製図であり、その知識技術は技術者として必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 前期に学習した内容を活用し、建築製図実習8にて設計したオフィス建築を題材にモデリング・設計図面への作り替えを行い、短時間での設計・製図技術の向上を目指し学習します。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習6 | 01) 設計条件を敷地条件を整理し、モデリングが始められるようにデータ整理ができる。 |
| 単位 | 2 | 02) Revitでプレゼンテーション(マテリアル)の設定ができる。 |
| 履修時間 | 60 | 03) Revitでプレゼンテーション(方角・場所・太陽)の設定ができる。 |
| 回数 | 30 | 04) Revitでプレゼンテーション(パースビューの作成)の設定ができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) Revitでプレゼンテーション(家具を配置したショットパース)の設定ができる。 |
| 省庁分類 | - | 06) Revitでプレゼンテーション(3Dビューを利用した外観パース)の設定ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) Revitでファミリの作成 参照面の作成ができる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 08) Revitでファミリの作成 パラメーターの設定ができる。 |
| 教科書 | はじめてのRevit&Revit LT | 09) Revitでファミリの作成 プロジェクトへのロードができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) Revitでファミリの作成 マテリアルの設定ができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+モデリング課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実施設計の実務経験がある教員が、図面とBIM技術の活用と実務的テクニックを教える。 | |

一級建築士科目

| | | |
|-------|-----------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 構造力学6では構造力学5より学んだ内容の復習と応用問題に取り組み、後半では振動・地震に着目し、「固有周期、振動モード、共振、応答スペクトル、減衰」や「終局耐力、全塑性モーメント、塑性ヒンジ」を学び建物の崩壊を理解、判断できるように学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 構造力学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 構造力学3 | 01) 断面2次モーメントを利用し、強軸と弱軸の方向を判別し、梁の適切な使用方向がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 断面係数を利用し、繰り度力がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 応力度(垂直応力度・せん断応力度)を求めるために、適切な計算式を組み立てることができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 梁のたわみ(量・角)を、荷重の種類、梁の形状より適切な公式を判断し、値を求めることができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 長柱の形状より座屈長さを求め、計算により弾性座屈荷重がわかる。 |
| 省庁分類 | 23.⑤構造力学 | 06) 不静定構造物において、剛度を求め、剛比を元に分割モーメント、到達モーメントの値がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 不静定構造物のモーメント図が作図できる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 08) ラーメン構造における地震時の応力において、せん断力と曲げモーメントの関係がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築構造力学 | 09) 外力を受ける多層ラーメン構造において、各層に影響する層せん断力、各部材に掛かる負担がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建物をモデル化し、振動による固有周期が計算によりわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 二級建築士の取得は建築の各分野の知識・技術の習得を確認し、公的に認定される資格である。設計・施工問わず建築に関わるものとして必須の資格である。2年間の知識・技術の確認と整理を行うために重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 二級建築士試験の実技(製図)に対応するため、木造とRC造、S造の基礎的な設計・製図を復習・整理します。ここまでの2年間の知識を設計製図にてまとめることで、知識と技術の確認と整理を行います。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習7 | 01) 設計条件を読み取り、求められている内容を正確に整理できる。 |
| 単位 | 1 | 02) 設計条件を読み取り、求められている規模・構造種別を正確に把握できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 設計条件を読み取り、求められている必要諸室・そのサイズを正確に理解し、エスキースできる。 |
| 回数 | 15 | 04) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面図/各階平面図が作図できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面図/立面図が作図できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 06) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面詳細図/矩計図/部材リストが作図できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした床伏図/小屋伏図が作図できる。 |
| 作成者 | 佐藤剛 | 08) 設計製図に合わせた設計コンセプトが文章としてまとめられた文字数で作文できる。 |
| 教科書 | - | 09) 設計製図に合わせて、凡例や部材リストとして一覧に、条件に合わせた書き込みができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 設計製図に合わせて、必要な面積を求め、面積表として書き込みができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【60点】+最終完成作品の提出により【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 設計の実務経験がある教員が、複合建築に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|-----------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築を計画するに当たっては、建築を取り巻く屋内外の環境(自然現象など)を知り、その効果を上手に取り入れて、より快適な空間の計画ができることが必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: この科目では光環境と温熱環境について学習します。光環境では視覚、照明、色彩について、温熱環境では温度と熱移動、室温と熱負荷、湿度と結露について学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 環境工学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 環境工学1 | 01) 視覚、照度と輝度などについてわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 日光、人工照明、照明計画の概要についてわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 色の表示、表色、色の名称についてわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 熱の移動、熱が伝わるしくみ、熱伝達、熱伝導、熱貫流量についてわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 室温の変動、室内外への熱の出入り、断熱性能についてわかる。 |
| 省庁分類 | 21. ③建築環境工学 | 06) 湿度、結露についてわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) |
| 作成者 | 加藤諭 | 08) |
| 教科書 | 図解建築環境工学の知識 | 09) |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ④⑧⑨ | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|-------------------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築各部の積算ルール、並びに各部の名称を理解し、社会に出てから必要とされる積算方法を学ぶ事で、現場監督として必要な基礎力を身に付けることは重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 土工事・鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事から、仕上工事に渡る各部の名称と拾い出しのルールを理解し、各段階において何が求められ、どのように行動が必要かを学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築積算 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築積算 | 01) 建築工事費の階層構造と、各区分(直接工事費・純工事費・工事原価・工事価格)がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 数量積算基準(設計・所要・計画)や、計測単位がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 基礎と基礎梁、柱と梁や床版・壁との取合い、内外仕上の各区分がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 根伐の数量積算方法について学ぶ。深さと法幅・余幅の関係や、根伐基準レベルの考え方がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 床付け・砕石地業・捨てCONの計測や、埋戻し数量の積算方法がわかる。 |
| 省庁分類 | 34. ⑧建築生産 | 06) コンクリートの積算方法について学ぶ。鉄筋・鉄骨体積の割合や、開口部控除等がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 型枠の積算方法について学ぶ。先との関係や、控除基準がわかる。 |
| 作成者 | 白石越郎 | 08) 鉄筋の積算方法について学ぶ。各部名称、定着や余長、フックや継手等の配筋ルールがわかる。 |
| 教科書 | 基準にもとづく建築積算入門 | 09) 仕上の各区分について理解をし、内法寸法の基準と控除項目がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 内装の天井・壁・床の積算ルール及び、開口部の構成を理解した上で積算ルールがわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 設計者において、施工まで考えた図面とは意匠図とは異なり細かな表現が必要です。BIMの技術は立体的なモデルと同時に整合性の取れた図面が仕上がります実務的なCAD製図であり、その知識技術は技術者として必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 前期に学習した内容を活用し、建築製図実習8にて設計したオフィス建築を題材にモデリング・設計図面への作り替えを行い、短時間での設計・製図技術の向上を目指し学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習7 | 01) 設計条件を敷地条件を整理し、モデリングが始められるようにデータ整理ができる。 |
| 単位 | 1 | 02) AutoCADにて、基本的な情報を作図し、モデリングの元のデータを簡単に作図できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) Revitでモデリングするための準備(敷地・通り芯・外壁・界壁・間仕切り壁・建具)ができる。 |
| 回数 | 15 | 04) Revitでモデリング(レベルの作成・2Dデータの挿入・各部分のモデリング・グループ化)ができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) Revitでモデリング(各部分の確認・修正・編集・設定)ができる。 |
| 省庁分類 | - | 06) Revitでプレゼンテーション(マテリアル)の設定ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) Revitでプレゼンテーション(方角・場所・太陽)の設定ができる。 |
| 作成者 | 野上和裕 | 08) Revitでプレゼンテーション(パースビューの作成)の設定ができる。 |
| 教科書 | はじめてのRevit&Revit LT | 09) Revitでプレゼンテーション(家具を配置したショットパース)の設定ができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) Revitでプレゼンテーション(3Dビューを利用した外観パース)の設定ができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+モデリング課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実施設計の実務経験がある教員が、図面とBIM技術の活用と実務的テクニックを教える。 | |

一級建築士科目

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 一級建築士の取得は建築の各分野の知識・技術の習得を確認し、公的に認定される資格である。設計・施工問わず建築に関わるものとして必須の資格である。2年間の知識・技術の確認と整理を行うために重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 一級建築士試験の実技(製図)に対応するため、木造とRC造、S造の基礎的な設計・製図を復習・整理します。ここまでの2年間の知識を設計製図にまとめることで、知識と技術の確認を行いもれなく学習します。 |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習⑧ | 01) 設計条件を読み取り、求められている内容を正確に整理できる。 |
| 単位 | 2 | 02) 設計条件を読み取り、求められている規模・構造種別を正確に把握できる。 |
| 履修時間 | 60 | 03) 設計条件を読み取り、求められている必要諸室・そのサイズを正確に理解し、エスキースできる。 |
| 回数 | 30 | 04) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした配置図/各階平面図が作図できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面図/立面図が作図できる。 |
| 省庁分類 | | 06) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面詳細図/矩計図/部材リストが作図できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした床伏図/小屋伏図が作図できる。 |
| 作成者 | 白井雅哲 | 08) 設計製図に合わせた設計コンセプトが文章としてまとめられた文字数で作文できる。 |
| 教科書 | 二建・一級建築士試験 設計製図テキスト | 09) 設計製図に合わせて、凡例や部材リストとして一覧に、条件に合わせた書き込みができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 設計製図に合わせて、必要な面積を求め、面積表として書き込みができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 前半課題の提出により【50点】+後半課題の提出により【50点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 建築士としての実務経験がある教員が、建築士試験に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

一級建築士科目

| | | |
|-------|-----------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 建築を計画するに当たっては、建築を取り巻く屋内外の環境(自然現象など)を知り、その効果を上手に取り入れて、より快適な空間の計画ができることが重要で、そのために環境工学の知識が必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 温熱環境、室内空気環境、音環境について学習します。 |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 環境工学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 環境工学2 | 01) 温熱環境の6つの要因(気温、風速、湿度、放射温度、着衣量、代謝量)がわかる。 |
| 単位 | 1 | 02) 温熱環境指標の種類とその因子がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 太陽の位置、日照と日影の関係がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 室内汚染物質の発生源と影響、室内の環境基準値がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 必要換気量、自然換気、機械換気がわかる。 |
| 省庁分類 | 21.③建築環境工学 | 06) 音の性質、単位、音のレベル(dB)、音の伝搬がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 室内の音、吸音、遮音、騒音、振動がわかる。 |
| 作成者 | 加藤諭 | 08) 建築設備における、ビルの空気調和設備の系統図・ダクト図・配管図・機械室ダクト図等を理解し説明することができる。 |
| 教科書 | 図説建築環境の知識 | 09) 建築設備における、集合住宅の給水設備、給湯設備、排水設備を計画することができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建築設備における、建物内の自家発電設備、蓄電池設備、照明設備・コンセント設備の特徴がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356. 建築科 専門士コース | 必要性: 設計者において、施工まで考えた図面とは異なり細かな表現が必要です。BIMの技術は立体的なモデルと同時に整合性の取れた図面が仕上がりがより実務的なCAD製図であり、その知識技術は技術者として必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 前期に学習した内容を活用し、建築製図実習⑧にて設計したオフィス建築を題材にモデリング・設計図面への作り替えを行い、短時間で設計・製図技術の向上を目指し学習します。 |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習⑧ | 01) 設計条件を敷地条件を整理し、モデリングが始められるようにデータ整理ができる。 |
| 単位 | 1 | 02) AutoCADにて、基本的な情報を作図し、モデリングの元のデータを簡単に作図できる。 |
| 履修時間 | 60 | 03) Revitでモデリング 事例1 住宅設計図から3Dモデリングができる。 |
| 回数 | 30 | 04) Revitでモデリング 事例2 住宅設計図から外観パースが作成できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) Revitでモデリング 事例3 住宅設計図から内観パースが作成できる。 |
| 省庁分類 | - | 06) Revitでモデリング 事例4 課題で考えた設計家をRevitで作成し、プレゼンテーションできる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) Revitでモデリング 事例5 ファズワース邸を作成できる。 |
| 作成者 | 野上和裕 | 08) Revitでモデリング 事例6 敷地案内図から周辺地域のモデリングを作成する。 |
| 教科書 | はじめのRevit&Revit LT | 09) Revitでモデリング 事例7 設備計画・配管計画が作成できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) Revitでモデリング 事例8 鉄筋が配筋された施工詳細概念図が作成できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+モデリング課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実施設計の実務経験がある教員が、図面とBIM技術の活用と実務的テクニックを教える。 | |

履修科目履修単位表 通信 建築士専科 二級建築士コース 1年次
 2026年度入学生用
 東京テクニカルカレッジ

| 分類大 | 番号 | 必修選択 | 教育科目名 | 単位数 | 実務経験※1 | 備考 |
|------------|----|------|---------|-----|--------|----|
| 講義・演習科目 | 01 | ◎ | 建築概論 | 2 | ○ | |
| | 02 | ◎ | 建築計画1 | 2 | ○ | |
| | 03 | ◎ | 建築史 | 2 | ○ | |
| | 04 | ◎ | 建築設備1 | 2 | ○ | |
| | 05 | ◎ | 構造力学1 | 2 | ○ | |
| | 06 | ◎ | 建築一般構造1 | 2 | ○ | |
| | 07 | ◎ | 建築一般構造2 | 2 | ○ | |
| | 08 | ◎ | 建築材料 | 2 | ○ | |
| | 09 | ◎ | 建築施工1 | 2 | ○ | |
| | 10 | ◎ | 建築法規1 | 2 | ○ | |
| 実習 実験科目 | 01 | ◎ | 建築設計実習1 | 1 | ○ | |
| | 02 | ◎ | 建築設計実習2 | 2 | ○ | |
| | 03 | ◎ | 建築設計実習3 | 1 | ○ | |
| | 04 | ◎ | 建築設計実習4 | 1 | ○ | |
| 総必要履修単位数 | | | | 25 | | |
| 選択科目単位数 | | | | 0 | | |
| 総単位数 | | | | 25 | | |

◎・・・必修科目(当該学科の全学生が卒業までに必ず履修しなければならない科目)
 ○・・・選択必修科目(一群の選択科目の中から指定された科目数を選択して履修しなければならない科目)
 △・・・選択科目(学生が任意に選択して受講することができる科目)
 ※卒業に必要な履修単位数は「総必要単位数」欄に示された数である。
※1・・・実務経験ある教員担当科目

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: これから学ぶ建築に関する各分野の基礎知識(計画、環境・設備・法規、構造、施工など)について、全体を俯瞰して概観し、効果的な学び方を身につける必要があります。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 建築業界の全体像を概観し、業界で活躍するために必要な資格を把握するとともに、それらの資格を取得するための学修について考えます。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築概論 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築概論 | 01) 建築業界とそこで活躍するための資格、その資格を取得するための学修について把握する |
| 単位 | 1 | 02) 建築の歴史、その時代の社会性や歴史、思想、技術について学ぶ |
| 履修時間 | 30 | 03) 人体を基準とした単位や動作空間、計画する上での基本的な考え方がわかる |
| 回数 | 15 | 04) 実施設計に求められる項目(意匠図・構造図・設備図など)がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 建築物を構成する各種材料の種類と特長について体系的にわかる |
| 省庁分類 | 20. ②建築計画 | 06) 各種構造形式の違いや特徴を理解する |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 衛生・空調・電気の3分野について理解を深める |
| 作成者 | 白石越郎 | 08) 工事監理と工程管理を知り、工事の流れを知り、監理と管理の違いがわかる。 |
| 教科書 | プロセスでわかる 住宅の設計・施工 | 09) 建築に求められる安全な構造のための基礎的な力学がわかる |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建ぺい率・容積率・道路や斜線制限などの基礎的な法規を理解する |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務で必要な実施設計・施工管理技術を教える必要があり、実施設計・施工管理経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356建築科 | 必要性: 建築の分野では立体物を平面上に表したり・逆に平面的な図面から立体物を読み取ることが建築技術者の基礎になります。正しい製図法を理解し適切な図面を描き分ける技術、図面を読み取る知識はとて重要で。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 手描き製図の道具の正確な使い方、製図法を学習します。立体物を展開図や透視図を描きながら理解を深め、階段の作図や模型の作成を通じてより建築的な作図を学習します。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習I | 01) 平行定規・勾配定規、シャープペンシルなど製図道具を正しく使用できる。 |
| 単位 | 1 | 02) 三角スケールをもちいて尺度のある図面から正確な寸法がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 立体物を把握し三面図を作図できる。 |
| 回数 | 15 | 04) 立体物を把握し展開図を作図できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 立体物を把握し断面図を作図できる。 |
| 省庁分類 | 32. ⑩その他 | 06) 展開図より立方体の模型を作成できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) アクソメトリックとアイソメトリックの違いが分かり、描き分けることができる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 08) 1点透視図法を知り、簡単な図形を1点透視図法で作図できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト/建築製図基本の基本 | 09) 2点透視図法を知り、簡単な図形を2点透視図法で作図できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記と実技試験による履修判定試験により【60点】+課題提出による習熟度チェックにより【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ①② | |
| 備考 | 実務で必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築業界に携わるものとして、寸法の知識、身体スケール、モジュール、人体行動の知識、動作空間など、寸法を意識的に観察し体験的に覚え、諸室に求められている機能を知ること共に、各所室の必要な機能と大きさを学びます。図面を見るだけではなく実際に計測することで、体験的に寸法を身に付けるように学習します。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 寸法の歴史を知り、モジュール体験を知ること共に、各所室の必要な機能と大きさを学びます。図面を見るだけではなく実際に計測することで、体験的に寸法を身に付けるように学習します。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築計画 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築計画I | 01) 建築計画に用いる寸法の種類、成り立ちを知り、それぞれの意味・違いがわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) zoning、動線とは何なのか違いがわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 長い建築寿命の経済的仕組みを知り説明できる。 |
| 回数 | 15 | 04) 現在まで続いて来た寸法のシステム(規格)を知り日常的に読み解くことができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 教室実測し、寸法を確認しながら作図できる。 |
| 省庁分類 | 20. ②建築計画 | 06) 実測した図面から、必要な計算(高さ・面積など)ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 独立住宅の中で動と動線がどの様に計画されているのかを図面から読み取り、説明できる。 |
| 作成者 | 矢原奈歌 | 08) 独立住宅の歴史的な作品と読み取り、特徴を説明できる。 |
| 教科書 | やさしい建築計画 | 09) 独立住宅の工法の種類を知り、どれが用いられているのかの判断ができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 集合住宅の特徴を把握する |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ④ | |
| 備考 | 実務で必要な設計・計画技術を教える必要があり、設計経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。安全で強固に建物を建てるために、各種構造種別の特徴を理解し最適な工法を知ることがとても重要で。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 最初に、各種構造を学んでいく際に必要となる「基本的な言葉の意味」を学びます。その上で、各種構造の一つ目となる木質構造について、材料、接合部、構造概要など詳しく学んでいきます。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築一般構造 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築一般構造I | 01) 建築物を構成している要素がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 建築物に作用する外力と、その外力に対してどのような仕組みで耐えているのかがわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 木質構造の概要と木質構造の種類がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 木材及び木質材料の材料特性がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 木材の接合方法(継手、仕口)とその性能がわかる。 |
| 省庁分類 | 24. ⑥建築一般構造 | 06) 軸組の全体像と、各部位の名称がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 小屋組の全体像と、各部位の名称がわかる。 |
| 作成者 | 清孝英 | 08) 基礎の種類とその特徴がわかり、構造図から、どのような基礎であるか判断できる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築構造 | 09) 地層の種類とその特徴がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 地盤調査の種類とその目的がわかり、その概要が説明できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ④ | |
| 備考 | 実務で必要な木造技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとも重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 各部屋の寸法や機能を学習し必要な要素を適切に配置できることを目標に設計を学び、小規模な木造住宅の設計を行います。住宅を適切な表現方法により作図し、相手に自分の考えを伝えるためにまとめ上げます。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習2 | 01) エスキースの意味と線の強弱を描き分けることができる。 |
| 単位 | 2 | 02) トイレを題材に部屋の計測を学び、設計において必要な寸法を見つけ出し測ることができる。 |
| 履修時間 | 60 | 03) トイレ・浴室・洗面脱衣室の基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。 |
| 回数 | 30 | 04) 玄関・キッチン・寝室・クローゼットの基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 階段の名称・寸法・形状を知り適切な階段の設計ができる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 06) 書斎・リビング・ダイニング・吹き抜けの基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 駐車場・玄関アプローチなど外構の要素・寸法・繋がりを理解し、設計できる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 08) 適切な寸法・室名の記入が行え、面積表など必要な書き込みを行いエスキース図面として作図できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト | 09) 高さ関係の寸法を理解し、立面図・断面図を作図することができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【50点】+毎週の課題提出により【20点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (3)(4) | |
| 備考 | 木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとも重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 前期の計画的要素に構造・法規の要素を追加して設計を行います。100㎡規模の設計課題に取り組み、様々な条件による住宅を提案し、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習3 | 01) 住宅の必要諸室の一般サイズがわかり、構造を意識した柱・部屋の配置ができる。 |
| 単位 | 1 | 02) 住宅の必要諸室の用途がわかる程度の家具・設備を適切なサイズで作図できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 面積計算(敷地面積・建築面積・床面積・延べ面積・建蔽率・容積率)ができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 斜線制限(道路・隣地・北側)を理解し、建てること可能な範囲を割り出すことができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 設計課題1: 斜線制限を意識した木造2階建て住宅を提案できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 06) 設計課題2: 高低差のある敷地における木造2階建て住宅を提案できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 設計課題3: 旗竿敷地における、販売を意識した高級木造2階建て住宅を提案できる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 08) スタディ模型を作成し、屋根や開口部の検討を行い、図面へのフィードバックができる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト | 09) 設計趣旨やイメージなど他人に正確に伝えるためにまとめ表現できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【50点】+毎週の課題提出により【20点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (3)(4) | |
| 備考 | 木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|---------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 「建築設備」には、給排水・衛生設備、空調設備、電気設備などがあります。建築を計画するうえで「建築設備」は居住・利用する人にとって快適で利便性の高い生活環境を求めするために必要不可欠なものです。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 「建築設備1」では、給排水・衛生設備、空調を中心に、建築計画する上で必要な給水設備、給湯設備、排水・通気設備、衛生器具設備、空調設備に関する知識について学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築設備 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設備1 | 01) 建築設備とは何か、建築設備の種類がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 給排水・衛生設備で取り扱う水の基本的な性質がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 給水設備計画で知っておくべき、給水方式、汚染防止、機材などがわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 排水・通気設備計画で知っておくべき、排水の種類、排水方式、トラップ、阻集器の役割などがわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 衛生器具設備(水受容器、給水器具、排水器具など)の種類がわかる。 |
| 省庁分類 | 22. ④建築設備 | 06) ガス設備における都市ガスと液化石油ガス(プロパンガス)の特徴がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 空調負荷の種類や顕熱負荷・潜熱負荷がわかる。 |
| 作成者 | 加藤 諭 | 08) 空調負荷計算の方法がわかる。 |
| 教科書 | 図説建築設備の知識 | 09) 冷媒方式の種類と特徴がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 配管設備やダクト設備の概要がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (4)(8)(9) | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れおくことが必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 法令集を調べるための原則や調べ方の手順を理解し、「建築基準法」のうち「全体構成」「用語の定義」「面積(建蔽率・容積率)・高さの定義」「道路」「用途地域」を取り上げ、概要の理解と関連条文を調べられるように学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築法規 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築法規1 | 01) 建築関係法令集にはどのような法が掲載されているのか、その概要がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 「法律・政令・省令」の関係がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) どの条文でも、それが「第何条・第何項・第何号」かを言うことができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 「または・かつ・いずれか」「以上・以下・超える・未満」などの意味を正しくとらえることができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 建築基準法の「用語の定義」の各項目について、正しい解釈がわかる。 |
| 省庁分類 | 28. ⑨建築法規 | 06) 建築基準法の「面積・高さの定義」の各項目について、正しい解釈がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 建築基準法の「建蔽率」について、この規定の意味と、基本の考え方がわかる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 08) 建築基準法の「容積率」について、この規定の意味と、基本の考え方がわかる。 |
| 教科書 | 建築関係法令集 | 09) 建築基準法の「高さ制限」のうち「道路斜線制限・隣地斜線制限・北側斜線制限」についてわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建築基準法の「用途地域」について、なぜこれらの規定があるのかと、別表2の読み取り方がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【82点】+毎週の課題提出により【18点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (4)(7) | |
| 備考 | 建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。安全で強固に建物を建てるために、各種構造種別の特徴を理解し最適な工法を知ることがとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 3 | 学習内容: コンクリートはそれが実現できる建物規模に対して、比較的安価な材料であるといわれておりますが、ひび割れ等の不具合も発生します。鉄筋コンクリート構造の特徴とメリット・デメリットについて学んでいきます。 |
| 教科名 | 建築一般構造 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築一般構造2 | 01) 鉄骨構造の材料的発展及び構造計画の発展の歴史がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 鉄骨構造における各種構造形式がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 鉄骨構造のメリット・デメリットがわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 鋼材の種別や機械的性質の違いがわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 基準強度、許容応力度、降伏強度、引張強度、ヤング係数といった言葉の意味がわかる。 |
| 省庁分類 | 24. ⑥建築一般構造 | 06) 鉄筋コンクリートの発生から現代までの歴史がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 鉄筋コンクリート構造の特徴とメリット・デメリットがわかる。 |
| 作成者 | 清孝英 | 08) 鉄筋コンクリート構造の形式の種類が判別できる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築構造 | 09) 鉄筋コンクリートを構成する材料がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) コンクリートの種類と、それぞれの注意点がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務で必要な鉄筋コンクリート造技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない、建築に係るものとして設計製図の技術・知識はとも重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | 学習内容: 二級建築士の木造課題の範囲を理解し、要求図面を過不足なく設計・製図することが重要であり、時間管理と共に課題に合わせた回答を描き切る練習を行い、二級建築士実技試験に対応します。 |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習4 | 01) 二級建築士の実技試験のルールを知り、求められる範囲がわかる。 |
| 単位 | 1 | 02) 二級建築士の実技試験の課題の種類に対して、描き上げる図面の範囲がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 課題文から求められている条件を元に、エスキースにて住宅の大きなサイズがわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 各階平面図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 立面図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 06) 短計図(又は断面、部分詳細)に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 2階床伏図兼1階小屋伏図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 08) 面積を正確に計算し、面積表が作成できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト | 09) 計画の要点を整理、設計趣旨を所定の欄に指定された文字数の範囲で表現できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 時間管理を自分で行い、ペース配分の過不足を自分で判断できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+毎週の課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ③④⑤⑦ | |
| 備考 | 木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|-------------------------------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築に関わる者として、建設現場における4大任務(品質管理・原価管理・工程管理・安全衛生管理)の意味を理解し、実社会での管理の在り方を知ることはとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | 学習内容: 4大任務の各内容の概要から一歩踏み込んだ所までを学びます。建設現場では日々どのような事を行い、どんな事に気を付けて管理をしなければいけないかを理解するため順序立てて学習します。 |
| 教科名 | 建築施工 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築施工1 | 01) 品質管理の目的・管理手法・品質管理の7つ道具がある事がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) P D C Aサイクルの意味・活用方法がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 原価管理の目的・出来高と進捗度の関係がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) ゼネコンとサブコンとの間で取り交わしをする書類についてどのようなものがあるのかわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 工程管理の重要性・マイルストーンの押え方・原価管理との関係性がわかる。 |
| 省庁分類 | 34. ⑧建築生産 | 06) ネットワーク工程表の読み取り方・作図方法を学び、ネットワーク工程表を読み解くことができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 建設現場における安全管理の重要性・その他の項目との関係性がわかる。 |
| 作成者 | 杉本安雄 | 08) K Y K・T B M・新規入場者教育等、建設現場における安全管理の手法がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築施工 | 09) 一般建設業・特定建設業など、建設業法で定められる建設会社の制限・資格について違いがわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) モチベーション・モラル等、4大任務に追加する考えの「M」の内容・考え方がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ④⑥ | |
| 備考 | 施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築設計において、適切な材料を適切な部位に採用するためには、材料の美観性のみならず、物理的性能・性質についても正確な知識が必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | 学習内容: 建築材料1では、建築の主要構造部を担う3大材料である木、コンクリート、鉄の基礎的知識について学びます。内外装材料の選択において、床・壁・天井とそれぞれの部位における材料の種類とその特徴を理解し、さらにはそれらの下地も含めた取り付け方法について学びます。 |
| 教科名 | 建築材料 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築材料 | 01) 木材及び木質構造の特徴がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 樹木の種類や主な用途、注意点がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 木材の基本的性質(乾燥・収縮・変形・可燃)や物理的性質がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) コンクリート及び鉄筋コンクリート構造の特徴がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) コンクリートを構成する材料及びコンクリートの種類がわかる。 |
| 省庁分類 | 25. ⑦建築材料 | 06) 断熱に対する要求性能に対しての適切な材料選定ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 防火に対する要求性能に対しての適切な材料選定ができる。 |
| 作成者 | 又野寛子 | 08) シックハウス対策における注意点がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築材料 | 09) 開口部材の各部位の名称がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務で必要な仕上げ材に関する知識・施工技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|---------------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容及び学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 構造力学1では、基本的な構造力学の考え方と、構造物や力の表現方法を学び、建築構造力学の共通言語を習得し、「モーメント」、「力の分解・合成」、「力の釣り合い」の計算方法を学習。後半から構造物内部に発生する「断面力(応力)」について学習します。 |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 構造力学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 構造力学1 | 01) 力学の必要性を理解し、構造物に加わる荷重の種類がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 構造物を部材と節点に分解し荷重図としてモデル化できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 「安定構造物・不安定構造物」「静定構造物・静不定構造物」の違いを理解し判別式より種類分けできる。 |
| 回数 | 15 | 04) 荷重・力を理解し「ベクトル」として表現でき、作用点に発生するモーメントがわかる |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 荷重の位置、作用する位置を正確に把握し、作用点に発生するモーメントがわかる。 |
| 省庁分類 | 23. ⑤構造力学 | 06) 「力の合成・分解」を図により求め、適切な大きさ・方向・位置の「合力・分力」がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 「力のつり合い条件式」を理解し、つり合うために必要な力がわかる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 08) 構造物内に発生する断面力(応力)の種類がわかる。 |
| 教科書 | 建築構造力学 新版(初学者の建築講座) | 09) 断面力(応力)の正負の方向性を理解し、構造物内の力の流れがわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 荷重図より、応力図(軸方向力・せん断力・曲げモーメント力)を作図できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (4) | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容及び学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人々が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 1年次に学習した木造住宅をベースにRC造の集合住宅の設計を行います。500㎡から1500㎡規模の集合住宅の設計課題に取り組み、共用部を意識した提案を行い、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習5 | 01) 鉄筋コンクリート構造を理解し、柱・梁のラーメン構造の仕組みがわかる。 |
| 単位 | 1 | 02) ラーメン構造と壁式構造の違いを理解し、適切な構造を選択できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 基本スパンより、柱・梁の断面を求められ、適切なスラブ厚がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 主要構造部材の存在を理解し、EVやボイド等作ることができない場所を判断できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 住戸計画より、適切なスパンを選択し、住戸・住棟の面積を算出できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 06) 廊下・バルコニー・避難、その他共有部を理解し、適切な寸法・距離を確保して設計できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 水回り、MB、PS、設備空間を理解し、無理ない寸法で設計できる。 |
| 作成者 | 佐藤剛 | 08) 集合住宅の敷地内に求められる、駐輪・駐車・ゴミ置き場等駐車分離を意識し適切な数量で設計できる。 |
| 教科書 | 建築設計テキスト 集合住宅/設計資料集 | 09) 課題1. 賃貸集合住宅+(クライアントの) 住宅を設計し、各種図面を作図し、提案できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 課題2. 賃貸集合住宅を設計し、各種図面を作図し、提案できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+毎週の課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 鉄筋コンクリート造の設計の実務経験がある教員が、鉄筋コンクリート造に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|-------------------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容及び学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 施工管理の面で、「防水工事」や「仕上工事」は、その内容が複雑で細心の注意を必要とするものであり、現段階でその概要や基礎的な知識を身に付けることは、今後の学習の理解を深める上でも非常に重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: パワーポイントで作成された資料を基本として、各工事の概要・具体的な内容を解説すると共に、実際の現場でそれら各工事がどのような流れで計画され、施工されるのかを確認していきます。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築施工 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築施工2 | 01) 「屋上・防水工事」の種類や各工法がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 「屋根工事」の種類や各工法がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 実際の工事現場で、「仕上工事」が時系列的にどのようなタイミングで施工されるのかがわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 施工管理業務の中で、「仕上工事」の重要性がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 塗装、金属、内装、石・タイル工事等の「各仕上工事」の概要と詳細項目がわかる。 |
| 省庁分類 | 34. ⑧建築生産 | 06) 他工種(設備工事等の関連工事)との関係性がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 「仕上工事」に関する現場での課題(問題)がわかる。 |
| 作成者 | 杉本安雄 | 08) 「設備工事」についての概要がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築施工 | 09) 「メンテナンス」や「瑕疵担保」に関する内容(概要)がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容及び学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておく必要があります。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 前半では建築物の防火・耐火に関する規定を、後半は「居室」に関する事項など小規模建築物にも適用される規定を取り上げ、それぞれ概要を理解するとともに、法令集で関連条文を調べることができるように学習します。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築法規 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築法規2 | 01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。 |
| 単位 | 2 | 02) 建築基準法の「耐火・防火」については複数の規定があり、重複する場合は厳しい方に従うことがわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 建築基準法の「防火地域・準防火地域」に関する規定について、集団規定であること及びこの規定の意味がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 建築基準法の「耐火建築物等とすべき建築物」に関する規定について、単体規定であること、この規定の意味及び全体像がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 建築基準法の「地階の居室」「昇降」「天井の高さ」「床の防湿」「階段」に関する規定について、それぞれの規定の概要及び基本の考え方がわかる。 |
| 省庁分類 | 28. ⑨建築法規 | 06) 建築基準法の「確認申請」「中間検査」「完了検査」及び「建築主事」「指定確認検査機関」の意味とそれぞれの関係がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 建築基準法上、確認済証の取得が必要かどうかを判断ができる。 |
| 作成者 | 佐藤智将 | 08) 建築基準法の「構造強度」に関する規定について、全体構成、概要、及び基本の調べ方がわかる。 |
| 教科書 | 建築関係法令集 | 09) 建築基準法の「構造強度」に関する規定のうち「基礎」については、「基礎」の項目のほかに「鉄筋コンクリート造」の項目も合わせて調べることができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建築基準法の「構造強度」に関する規定のうち「構造計算」の各項目について、それぞれの概要、及び原則・主な例の読み取り方がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【82点】+毎週の課題提出により【18点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (4)(7) | |
| 備考 | 建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|--------------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 二級建築士コース | 必要性:「建築設備」には、給排水、衛生設備、空調設備、電気設備などがあります。建築を計画するうえで「建築設備」は居住・利用する人にとって快適で利便性の高い生活環境を求めために必要不可欠なものです。 |
| 年度 | 2026年度 | 学習内容:本講義では、「建築設備の概要」から「給排水衛生設備」、「空調設備」、「電気設備」について、建築技術者として、建築の計画・設計、施工を行う上で必要な知識を学んでいきます。 |
| 学年 | 2年次 | |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築設備 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設備2 | 01) 事務所ビルの建築設備、戸建住宅と集合住宅の建築設備の違いを区別することができる。 |
| 単位 | 2 | 02) 地球温暖化の主原因であるCO2の排出量について、部門別について考えることができる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 戸建て住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 集合住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 戸建て住宅の空調設備・換気設備を計画することができる。 |
| 省庁分類 | 22.④建築設備 | 06) ビルの空調設備の主な空調方式とその特徴がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) ビルの空調設備の系統図・ダクト図、配管図・機械室ダクト図等を理解し説明することができる。 |
| 作成者 | 加藤諭 | 08) 建物内の受変電設備の仕組みを理解することができる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築設備 | 09) 建物内の電気幹線設備・動力設備の特徴を理解することができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建物内の自家発電設備・蓄電池設備・照明設備・コンセント設備の特徴がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|--------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 二級建築士コース | 必要性:建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。 |
| 年度 | 2026年度 | 学習内容:構造力学3では、様々な静定構造物に発生する反力より、応力を求め応力図を正確に描けるように繰り返し練習します。後半では静定トラス構造を学び、トラス構造における力の流れを理解します。 |
| 学年 | 2年次 | |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 構造力学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 構造力学2 | 01) 建築構造物を構造計算を行うために、正確にもモデル化できる。 |
| 単位 | 1 | 02) 静定構造物をつり合い条件式を用いて、反力計算ができる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 静定構造物の反力を元に、正確な荷重図作成ができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 静定構造物の荷重図より、各応力図(N図、Q図、M図)が作成できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) セン断力図(Q図)より、柱・梁においてせん断力が最も発生しているの位置がわかる。 |
| 省庁分類 | 23.⑤構造力学 | 06) 曲げモーメント力図(M図)より、柱・梁において引張力が最も発生しているの位置・側がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) トラス構造の条件・構造のモデルがわかる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 08) トラス構造の種類・特性がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築構造力学 | 09) トラス構造物を節点つり合い法を用いて、力の流れを求め、部材の軸方向力と圧縮/引張の判断ができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) トラス構造物をリッターの切断法を用いて、力の流れを求め、部材の軸方向力と圧縮/引張の判断ができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 二級建築士コース | 必要性:二級建築士の取得は建築の各分野の知識・技術の習得を確認し、公的に認定される資格である。設計・施工問わず建築に関わるものとして必須の資格である。2年間の知識・技術の確認と整理を行うために重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | 学習内容:二級建築士試験の実技(製図)に対応するため、木造とRC造、S造の基礎的な設計・製図を復習・整理します。ここまでの2年間の知識を設計製図にまとめることで、知識と技術の確認を行いもれなく学習します。 |
| 学年 | 2年次 | |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習7 | 01) 設計条件を読み取り、求められている内容を正確に整理できる。 |
| 単位 | 1 | 02) 設計条件を読み取り、求められている規模・構造種別を正確に把握できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 設計条件を読み取り、求められている必要諸室・そのサイズを正確に理解し、エスキースできる。 |
| 回数 | 15 | 04) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした配置図/各階平面図が作図できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面図/立面図が作図できる。 |
| 省庁分類 | 31.①建築設計製図 | 06) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面詳細図/矩図/部材リストが作図できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした床伏図/小屋伏図が作図できる。 |
| 作成者 | 佐藤剛 | 08) 設計製図に合わせた設計コンセプトが文章としてまとめ決められた文字数で作文できる。 |
| 教科書 | - | 09) 設計製図に合わせて、凡例や部材リストとして一覧に、条件に合わせた書き込みができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 設計製図に合わせて、必要な面積を求め、面積表として書き込みができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【60点】+最終完成作品の提出により【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 設計の実務経験がある教員が、複合建築に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|--------------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 二級建築士コース | 必要性:建築を計画するに当たっては、建築を取り巻く屋内外の環境(自然現象など)を知り、その効果を上手く取り入れて、より快適な空間の計画ができることが必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | 学習内容:この科目では光環境と温熱環境について学習します。光環境では視覚、照明、色彩について、温熱環境では温度と熱移動、室温と熱負荷、湿度と結露について学習します。 |
| 学年 | 2年次 | |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 環境工学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 環境工学1 | 01) 視覚、照度と輝度などについてわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 屋光、人工照明、照明計画の概要についてわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 色の表示、表色、色の名称についてわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 熱の移動、熱が伝わるしくみ、熱伝達、熱伝導、熱負荷、熱負荷量についてわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 室温の変動、室内外への熱の出入り、断熱性能についてわかる。 |
| 省庁分類 | 21.③建築環境工学 | 06) 湿度、結露についてわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) |
| 作成者 | 加藤諭 | 08) |
| 教科書 | 図解建築環境工学の知識 | 09) |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ④⑧⑨ | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|-------------------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士コース | 必要性: 建築各部の積算ルール、並びに各部の名称を理解し、社会に出てから必要とされる積算方法を学ぶ事で、現場監督として必要な基礎力を身に付けることは重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 土工事・鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事から、仕上工事に渡る各部の名称と拾い出しのルールを理解し、各段階において何が求められ、どのように行動が必要かを学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築積算 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築積算 | 01) 建築工事費の階層構造と、各区分(直接工事費・純工事費・工事原価・工事価格)がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 数量積算基準(設計・所要・計画)や、計測単位がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 基礎と基礎梁、柱と梁や床版・壁との取合い、内外仕上の各区分がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 根伐の数量積算方法について学ぶ。深さと法幅・余幅の関係や、根伐基準レベルの考え方がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 床付け・砕石地業・捨てCONの計測や、埋戻し数量の積算方法がわかる。 |
| 省庁分類 | 34. ③建築生産 | 06) コンクリートの積算方法について学ぶ。鉄筋・鉄骨体積の割合や、開口部控除等がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 型枠の積算方法について学ぶ。先と後の関係や、控除基準がわかる。 |
| 作成者 | 白石越郎 | 08) 鉄筋の積算方法について学ぶ。各部名称、定着や余長、フックや継手等の配筋ルールがわかる。 |
| 教科書 | 基準にもとづく建築積算入門 | 09) 仕上の各区分について理解をし、内法寸法の基準と控除項目がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 内装の天井・壁・床の積算ルール及び、開口部の構成を理解した上で積算ルールがわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。 | |

履修科目履修単位表 通信 建築士専科 一級建築士コース 1年次
 2026年度入学生用
 東京テクニカルカレッジ

| 分類 大 | 番号 | 必修選択 | 教育科目名 | 単位数 | 実務 経験 ※1 | 備考 |
|---------------------------------|----|------|---------|-----|----------------|----|
| 講 義 ・ 演 習 科 目 | 01 | ◎ | 建築概論 | 2 | ○ | |
| | 02 | ◎ | 建築計画1 | 2 | ○ | |
| | 03 | ◎ | 建築史 | 2 | ○ | |
| | 04 | ◎ | 建築設備1 | 2 | ○ | |
| | 05 | ◎ | 構造力学1 | 2 | ○ | |
| | 06 | ◎ | 建築一般構造1 | 2 | ○ | |
| | 07 | ◎ | 建築一般構造2 | 2 | ○ | |
| | 08 | ◎ | 建築材料 | 2 | ○ | |
| | 09 | ◎ | 建築施工1 | 2 | ○ | |
| | 10 | ◎ | 建築法規1 | 2 | ○ | |
| 実習 実験科目 | 01 | ◎ | 建築設計実習1 | 1 | ○ | |
| | 02 | ◎ | 建築設計実習2 | 2 | ○ | |
| | 03 | ◎ | 建築設計実習3 | 1 | ○ | |
| | 04 | ◎ | 建築設計実習4 | 1 | ○ | |
| 総必要履修単位数 | | | | 25 | | |
| 選択科目単位数 | | | | 0 | | |
| 総単位数 | | | | 25 | | |

◎・・・必修科目(当該学科の全学生が卒業までに必ず履修しなければならない科目)
 ○・・・選択必修科目(一群の選択科目の中から指定された科目数を選択して履修しなければならない科目)
 △・・・選択科目(学生が任意に選択して受講することができる科目)
 ※卒業に必要な履修単位数は「総必要単位数」欄に示された数である。
※1・・・実務経験ある教員担当科目

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 一級建築士コース | 必要性:これから学ぶ建築に関する各分野の基礎知識(計画・環境・設備・法規・構造・施工など)について、全体を俯瞰して概観し、効果的な学び方を身につける必要があります。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容:建築業界の全体像を概観し、業界で活躍するために必要な資格を把握するとともに、それらの資格を取得するための学習について考えます。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築概論 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築概論 | 01) 建築業界とそこで活躍するための資格、その資格を取得するための学習について把握する |
| 単位 | 1 | 02) 建築の歴史、その時代の社会性や歴史、思想、技術について学ぶ |
| 履修時間 | 30 | 03) 人体を基準とした単位や動作空間、計画する上での基本的な考え方がわかる |
| 回数 | 15 | 04) 実施設計に求められる項目(意匠図・構造図・設備図など)がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 建築物を構成する各種材料の種類と特長について体系的にわかる |
| 省庁分類 | 20.②建築計画 | 06) 各種構造形式の違いや特徴を理解する |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 衛生・空調・電気の3分野について理解を深める |
| 作成者 | 白石越郎 | 08) 工事監理と工程管理を知り、工事の流れを知り、監理と管理の違いがわかる。 |
| 教科書 | プロセスでわかる 住宅の設計・施工 | 09) 建築に求められる安全な構造のための基礎的な力学がわかる |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建べい率・容積率・道路や斜線制限などの基礎的な法規を理解する |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務に必要な実施設計・施工管理技術を教える必要があり、実施設計・施工管理経験のある実務教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356建築科 | 必要性:建築の分野では立体物を平面上に表したり、逆に平面的な図面から立体物を読み取ることが建築技術者の基礎になります。正しい製図法を理解し適切な図面を描き分ける技術、図面を読み取る知識はとも重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容:手描き製図の道具の正確な使い方、製図法を学習します。立体物を展開図や透視図を描きながら理解を深め、階段の作図や模型の作成を通じてより建築的な作図を学習します。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習I | 01) 平行定規・勾配定規・シャープペンシルなど製図道具を正しく使用できる。 |
| 単位 | 1 | 02) 三角スケールをもちいて尺度のある図面から正確な寸法がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 立体物を把握し三面図を作図できる。 |
| 回数 | 15 | 04) 立体物を把握し展開図を作図できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 立体物を把握し断面図を作図できる。 |
| 省庁分類 | 32.⑩その他 | 06) 展開図より立方体の模型を作成できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) アクソメトリックとアイソメトリックの違いが分かり、描き分けることができる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 08) 1点透視図法を知り、簡単な図形を1点透視図法で作図できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト/建築製図基本の基本 | 09) 2点透視図法を知り、簡単な図形を2点透視図法で作図できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記と実技試験による履修判定試験により【60点】+課題提出による習熟度チェックにより【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ①② | |
| 備考 | 実務に必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 一級建築士コース | 必要性:建築業界に携わるものとして、寸法の知識、身体スケール、モジュール、人体行動の知識、動作空間など、寸法を意識的に観察し体験的に覚え、諸室に求められている機能を知ることが建築技術者としてとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容:寸法の歴史を知り、モジュール体験を知ること共に、各所室の必要な機能と大きさを学びます。図面を見るだけでなく実際に計測することで、体験的に寸法を身に付けるように学習します。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築計画 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築計画I | 01) 建築計画に用いる寸法の種類、成り立ちを知り、それぞれの意味・違いがわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) ゾーニング、動線とは何なのかの違いがわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 長い建築寿命の経済的仕組みを知り説明できる。 |
| 回数 | 15 | 04) 現在まで続いて来た寸法のシステム(規格)を知り日常的に読み解くことができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 教室実測し、寸法を確認しながら作図できる。 |
| 省庁分類 | 20.②建築計画 | 06) 実測した図面から、必要な計算(高さ・面積など)ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 独立住宅の中で室と動線がどのように計画されているのかを図面から読み取り、説明できる。 |
| 作成者 | 矢原奈歌 | 08) 独立住宅の歴史的な作品と読み取り、特徴を説明できる。 |
| 教科書 | やさしい建築計画 | 09) 独立住宅の工法の種類を知り、どれが用いられているのかの判断ができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 集合住宅の特徴を把握する |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ④ | |
| 備考 | 実務に必要な設計・計画技術を教える必要があり、設計経験のある実務教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 一級建築士コース | 必要性:建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。安全で強固に建物を建てるために、各種構造種別の特徴を理解し最適な工法を知ることとはとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容:最初に、各種構造を学んでいく際に必要となる「基本的な言葉の意味」を学びます。その上で、各種構造の一つ目となる木質構造について、材料、接合部、構造概要など詳しく学んでいきます。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築一般構造 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築一般構造I | 01) 建築物を構成している要素がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 建築物に作用する外力と、その外力に対してどのような仕組みで耐えているのかがわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 木質構造の概要と木質構造の種類がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 木材及び木質材料の材料特性がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 木材の接合方法(継手、仕口)とその性能がわかる。 |
| 省庁分類 | 24.⑥建築一般構造 | 06) 軸組の全体像と、各部位の名称がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 小屋組の全体像と、各部位の名称がわかる。 |
| 作成者 | 清孝英 | 08) 基礎の種類とその特徴がわかり、構造図から、どのような基礎であるか判断できる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築構造 | 09) 地層の種類とその特徴がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 地盤調査の種類とその目的がわかり、その概要が説明できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ④ | |
| 備考 | 実務に必要な木造技術を教える必要があり、施工経験のある実務教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 学習内容: 各部屋の寸法や機能を学習し必要な要素を適切に配置できることを目標に設計を学び、小規模な木造住宅の設計を行います。住宅を適切な表現方法により作図し、相手に自分の考えを伝えるためにまとめ上げます。 |
| 科目名 | 建築設計実習2 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) エスキースの意味と線の強弱を描き分けることができる。 |
| 履修時間 | 60 | 02) トイレを題材に部屋の計測を学び、設計において必要な寸法を見つけ出し測ることができる。 |
| 回数 | 30 | 03) トイレ・浴室・洗面脱衣室の基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 玄関・キッチン・寝室・クローゼットの基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 05) 階段の名称・寸法・形状を知り適切な階段の設計ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 06) 書斎・リビング・ダイニング・吹き抜けの基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 07) 駐車場・玄関アプローチなど外構の要素・寸法・繋がりを理解し、設計できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト | 08) 適切な寸法・室名の記入が行え、面積表など必要な書き込みを行いエスキース図面として作図できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 高さ関係の寸法を理解し、立面図・断面図を作図することができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【50点】+毎週の課題提出により【20点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (3)(4) | |
| 備考 | 木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 学習内容: 前期の計画的要素に構造・法規の要素を追加して設計を行います。100㎡規模の設計課題に取り組み、様々な条件による住宅を提案し、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。 |
| 科目名 | 建築設計実習3 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 1 | 01) 住宅の必要諸室の一般サイズがわかり、構造を意識した柱・部屋の配置ができる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 住宅の必要諸室の用途がわかる程度の家具・設備を適切なサイズで作図できる。 |
| 回数 | 15 | 03) 面積計算(敷地面積・建築面積・床面積・延べ面積・建蔽率・容積率)ができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 斜線制限(道路・隣地・北側)を理解し、建てること可能な範囲を割り出すことができる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 05) 設計課題1: 斜線制限を意識した木造2階建て住宅を提案できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 06) 設計課題2: 高低差のある敷地における木造2階建て住宅を提案できる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 07) 設計課題3: 旗竿敷地における、販売を意識した高級木造2階建て住宅を提案できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト | 08) スタディ模型を作成し、屋根や開口部の検討を行い、図面へのフィードバックができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 設計趣旨やイメージなど他人に正確に伝えるためにまとめ表現できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【50点】+毎週の課題提出により【20点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (3)(4) | |
| 備考 | 木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|---------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 「建築設備」には、給排水・衛生設備、空調設備、電気設備などがあります。建築を計画するうえで「建築設備」は居住・利用する人にとって快適で利便性の高い生活環境を求めするために必要不可欠なものです。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築設備 | 学習内容: 「建築設備1」では、給排水・衛生設備、空調を中心に、建築計画する上で必要な給水設備、給湯設備、排水・通気設備、衛生器具設備、空調設備に関する知識について学習します。 |
| 科目名 | 建築設備1 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 建築設備とは何か、建築設備の種類がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 給排水・衛生設備で取り扱う水の基本的な性質がわかる。 |
| 回数 | 15 | 03) 給水設備計画で知っておくべき、給水方式、汚染防止、機材などがわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 排水・通気設備計画で知っておくべき、排水の種類、排水方式、トラップ、阻集器の役割などがわかる。 |
| 省庁分類 | 22. ④建築設備 | 05) 衛生器具設備(水受容器、給水器具、排水器具など)の種類がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) ガス設備における都市ガスと液化石油ガス(プロパンガス)の特徴がわかる。 |
| 作成者 | 加藤 諭 | 07) 空調負荷の種類や顕熱負荷・潜熱負荷がわかる。 |
| 教科書 | 図説建築設備の知識 | 08) 空調負荷計算の方法がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 冷媒方式の種類と特徴がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 配管設備やダクト設備の概要がわかる。 |
| 実務教員 | - | 評価方法 |
| 該当DP | (4)(8)(9) | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておくことが必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築法規 | 学習内容: 法令集を調べるための原則や調べ方の手順を理解し、「建築基準法」のうち「全体構成」「用語の定義」「面積(建蔽率・容積率)・高さの定義」「道路」「用途地域」を取り上げ、概要の理解と関連条文を調べられるように学習します。 |
| 科目名 | 建築法規1 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 建築関係法令集にはどのような法が掲載されているのか、その概要がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 「法律・政令・省令」の関係がわかる。 |
| 回数 | 15 | 03) どの条文でも、それが「第何条・第何項・第何号」かを言うことができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 「または・かつ・いずれか」「以上・以下・超える・未満」などの意味を正しくとらえることができる。 |
| 省庁分類 | 28. ⑨建築法規 | 05) 建築基準法の「用語の定義」の各項目について、正しい解釈がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) 建築基準法の「面積・高さの定義」の各項目について、正しい解釈がわかる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 07) 建築基準法の「建蔽率」について、この規定の意味と、基本的な考え方がわかる。 |
| 教科書 | 建築関係法令集 | 08) 建築基準法の「容積率」について、この規定の意味と、基本的な考え方がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 建築基準法の「高さ制限」のうち「道路斜線制限・隣地斜線制限・北側斜線制限」についてわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 建築基準法の「用途地域」について、なぜこれらの規定があるのかと、別表2の読み取り方がわかる。 |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | (4)(7) | 筆記試験による履修判定試験により【82点】+毎週の課題提出により【18点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。安全で強固に建物を建てるために、各種構造種別の特徴を理解し最適な工法を知ることがとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 3 | 学習内容: コンクリートはそれが実現できる建物規模に対して、比較的安価な材料であるといわれておりますが、ひび割れ等の不具合も発生します。鉄筋コンクリート構造の特徴とメリット・デメリットについて学んでいきます。 |
| 教科名 | 建築一般構造 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築一般構造2 | 01) 鉄骨構造の材料的発展及び構造計画の発展の歴史がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 鉄骨構造における各種構造形式がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 鉄骨構造のメリット・デメリットがわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 鋼材の種別や機械的性質の違いがわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 基準強度、許容応力度、降伏強度、引張強度、ヤング係数といった言葉の意味がわかる。 |
| 省庁分類 | 24. ⑥建築一般構造 | 06) 鉄筋コンクリートの発生から現代までの歴史がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 鉄筋コンクリート構造の特徴とメリット・デメリットがわかる。 |
| 作成者 | 清孝英 | 08) 鉄筋コンクリート構造の形式の種類が判別できる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築構造 | 09) 鉄筋コンクリートを構成する材料がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) コンクリートの種類と、それぞれの注意点がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務で必要な鉄筋コンクリート造技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人々が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない、建築に係るものとして設計製図の技術・知識はとも重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | 学習内容: 二級建築士の木造課題の範囲を理解し、要求図面を過不足なく設計・製図することが重要であり、時間管理と共に課題に合わせた回答を描き切る練習を行い、二級建築士実技試験に対応します。 |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習4 | 01) 二級建築士の実技試験のルールを知り、求められる範囲がわかる。 |
| 単位 | 1 | 02) 二級建築士の実技試験の課題の種類に対して、描き上げる図面の範囲がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 課題文から求められている条件を元に、エスキースにて住宅の大きなサイズがわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 各階平面図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 立面図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 06) 短計図(又は断面、部分詳細)に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 2階床伏図兼1階小室伏図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 08) 面積を正確に計算し、面積表が作成できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト | 09) 計画の要点を整理、設計趣旨を所定の欄に指定された文字数の範囲で表現できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 時間管理を自分で行い、ペース配分の過不足を自分で判断できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+毎週の課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ③④⑤⑦ | |
| 備考 | 木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|-------------------------------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築に関わる者として、建設現場における4大任務(品質管理・原価管理・工程管理・安全衛生管理)の意味を理解し、実社会での管理の在り方を知ることはとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | 学習内容: 4大任務の各内容の概要から一歩踏み込んだ所までを学びます。建設現場では日々どのような事を行い、どんな事に気を付けて管理をしなければいけないかを理解するため順序立てて学習します。 |
| 教科名 | 建築施工 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築施工1 | 01) 品質管理の目的・管理手法・品質管理の7つ道具がある事がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) P D C Aサイクルの意味・活用方法がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 原価管理の目的・出来高と進捗度の関係がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) ゼネコンとサブコンとの間で取り交わしをする書類についてどのようなものがあるのかわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 工程管理の重要性・マイルストーンの押え方・原価管理との関係性がわかる。 |
| 省庁分類 | 34. ⑧建築生産 | 06) ネットワーク工程表の読み取り方・作図方法を学び、ネットワーク工程表を読み解くことができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 建設現場における安全管理の重要性・その他の項目との関係性がわかる。 |
| 作成者 | 杉本安雄 | 08) K Y K・T B M・新規入場者教育等、建設現場における安全管理の手法がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築施工 | 09) 一般建設業・特定建設業など、建設業法で定められる建設会社の制限・資格について違いがわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) モチベーション・モラル等、4大任務に追加する考えの「M」の内容・考え方がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ④⑥ | |
| 備考 | 施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築設計において、適切な材料を適切な部位に採用するためには、材料の美観性のみならず、物理的性能・性質についても正確な知識が必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | 学習内容: 建築材料1では、建築の主要構造部を担う3大材料である木、コンクリート、鉄の基礎的知識について学びます。内外装材料の選択において、床・壁・天井とそれぞれの部位における材料の種類とその特徴を理解し、さらにはそれらの下地も含めた取り付け方法について学びます。 |
| 教科名 | 建築材料 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築材料 | 01) 木材及び木質構造の特徴がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 樹木の種類の主な用途、注意点がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 木材の基本的性質(乾燥・収縮・変形・可燃)や物理的性質がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) コンクリート及び鉄筋コンクリート構造の特徴がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) コンクリートを構成する材料及びコンクリートの種類がわかる。 |
| 省庁分類 | 25. ⑦建築材料 | 06) 断熱に対する要求性能に対しての適切な材料選定ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 防火に対する要求性能に対しての適切な材料選定ができる。 |
| 作成者 | 又野寛子 | 08) シックハウス対策における注意点がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築材料 | 09) 開口部材の各部位の名称がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務で必要な仕上げ材に関する知識・施工技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|---------------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 構造力学 | 学習内容: 構造力学1では、基本的な構造力学の考え方と、構造物や力の表現方法を学び、建築構造力学の共通言語を習得し、「モーメント」、「力の分解・合成」、「力の釣り合い」の計算方法を学習。後半から構造物内部に発生する「断面力(応力)」について学習します。 |
| 科目名 | 構造力学1 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 力学の必要性を理解し、構造物に加わる荷重の種類がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 構造物を部材と節点に分解し荷重図としてモデル化できる。 |
| 回数 | 15 | 03) 「安定構造物・不安定構造物」「静定構造物・静不定構造物」の違いを理解し判別式より種類分けできる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 荷重・力を理解し「ベクトル」として表現でき、作用点に発生するモーメントがわかる。 |
| 省庁分類 | 23. ⑤構造力学 | 05) 荷重の位置、作用する位置を正確に把握し、作用点に発生するモーメントがわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) 「力の合成・分解」を図により求め、適切な大きさ・方向・位置の「合力・分力」がわかる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 07) 「力のつり合い条件式」を理解し、つり合うために必要な力がわかる。 |
| 教科書 | 建築構造力学 新版(初学者の建築講座) | 08) 構造物内に発生する断面力(応力)の種類がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 断面力(応力)の正負の方向性を理解し、構造物内の力の流れがわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 荷重図より、応力図(軸方向力・せん断力・曲げモーメント力)を作図できる。 |
| 実務教員 | - | 評価方法 |
| 該当DP | (4) | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | | |

一級建築士科目

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 各公共施設の概要・歴史的背景、具体的な運用内容等の知識を身に付けることは、建物の計画・設計のみならず、将来の「現場監督」の基本的な教養・基本知識として関連業種を業務を円滑に進める上で重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築計画 | 学習内容: テキスト、パワーポイント資料を活用しながら、各(公共)施設の概要・構成・施設の運用方法を解説し、授業の最後には、カルテによって基本的な知識の習得度を確認します。 |
| 科目名 | 建築計画2 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 現在建設が進む公共建築(施設)には、どのようなものがあるのかわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 「事務所ビル」や公共建築物が発展してきた歴史的背景、基本計画・各部設計の概要がわかる。 |
| 回数 | 15 | 03) 「劇場、コンサートホール」の種類や構成内容がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 「商業施設」、「ホテル等の宿泊施設」の計画概要、各部計画の内容がわかる。 |
| 省庁分類 | 20. ②建築計画 | 05) 「博物館・美術館」の構成内容がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) 「病院等の医療施設」の構成内容がわかる。 |
| 作成者 | 矢原奈歌 | 07) 「高齢者施設」の種類とその内容がわかる。 |
| 教科書 | やさしい建築計画 | 08) 「都市計画」における住宅地の計画についてわかる |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 「都市計画」における住宅地でのコミュニティ計画についてわかる |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 「都市計画」における都市交通計画について理解する。 |
| 実務教員 | - | 評価方法 |
| 該当DP | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 実務に必要な設計・計画技術を教える必要があり、設計経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となるもので、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 学習内容: 1年次に学習した木造住宅をベースにRC造の集合住宅の設計を行います。500㎡から1500㎡規模の集合住宅の設計課題に取り組み、共用部を意識した提案を行い、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。 |
| 科目名 | 建築設計実習5 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 1 | 01) 鉄筋コンクリート構造を理解し、柱・梁のラーメン構造の仕組みがわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) ラーメン構造と壁式構造の違いを理解し、適切な構造を選択できる。 |
| 回数 | 15 | 03) 基本スパンより、柱・梁の断面を求められ、適切なスラブ厚がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 主要構造部材の存在を理解し、EVやボイド等作ることができない場所を判断できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 05) 住戸計画より、適切なスパンを選択し、住戸・住棟の面積を算出できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 06) 廊下・バルコニー・避難、その他共有部を理解し、適切な寸法・距離を確保して設計できる。 |
| 作成者 | 佐藤剛 | 07) 水回り、MB、PS、設備空間を理解し、無理ない寸法で設計できる。 |
| 教科書 | 建築設計テキスト 集合住宅/設計資料集 | 08) 集合住宅の敷地内に求められる、駐輪・駐車・ゴミ置き場等駐車分離を意識し適切な数量で設計できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 課題1. 賃貸集合住宅(クワイアントの)住宅を設計し、各種図面を作図し、提案できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 課題2. 賃貸集合住宅を設計し、各種図面を作図し、提案できる。 |
| 実務教員 | - | 評価方法 |
| 該当DP | - | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+毎週の課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 鉄筋コンクリート造の設計の実務経験がある教員が、鉄筋コンクリート造に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|-------------------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 施工管理の面で、「防水工事」や「仕上工事」は、その内容が複雑で細心の注意を必要とするものであり、現段階でその概要や基礎的な知識を身に付けることは、今後の学習の理解を深める上でも非常に重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築施工 | 学習内容: パワーポイントで作成された資料を基本として、各工事の概要・具体的な内容を解説すると共に、実際の現場でそれら各工事がどのような流れで計画され、施工されるのかを確認していきます。 |
| 科目名 | 建築施工2 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 「屋上・防水工事」の種類や各工法がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 「屋根工事」の種類や各工法がわかる。 |
| 回数 | 15 | 03) 実際の工事現場で、「仕上工事」が時系列的にどのようなタイミングで施工されるのかわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 施工管理業務の中で、「仕上工事」の重要性がわかる。 |
| 省庁分類 | 34. ⑧建築生産 | 05) 塗装、金属、内装、石・タイル工事等の「各仕上工事」の概要と詳細項目がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) 他工種(設備工事等の関連工事)との関係性がわかる。 |
| 作成者 | 杉本安雄 | 07) 「仕上工事」に関する現場での課題(問題)がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築施工 | 08) 「設備工事」についての概要がわかる |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 「メンテナンス」や「瑕疵担保」に関する内容(概要)がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) |
| 実務教員 | - | 評価方法 |
| 該当DP | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておく必要があります。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 前半では建築物の防火・耐火に関する規定を、後半は「居室」に関する事項など小規模建築物にも適用される規定を取り上げ、それぞれ概要を理解するとともに、法令集で関連条文を調べることができるように学習します。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築法規 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築法規2 | 01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。 |
| 単位 | 2 | 02) 建築基準法の「耐火・防火」については複数の規定があり、重複する場合は厳しい方に従うことがわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 建築基準法の「防火地域・準防火地域」に関する規定について、集団規定であること及びこの規定の意味がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 建築基準法の「耐火建築物等とすべき建築物」に関する規定について、単体規定であること、この規定の意味及び全体像がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 建築基準法の「地階の居室」「昇降」「天井の高さ」「床の防護」「階段」に関する規定について、それぞれの規定の概要及び基本の考え方がわかる。 |
| 省庁分類 | 28. ⑨建築法規 | 06) 建築基準法の「確認申請」「中間検査」「完了検査」及び「建築主事」「指定確認検査機関」の意味とそれぞれの関係がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 建築基準法上、確認済証の取得が必要かどうかを判断ができる。 |
| 作成者 | 佐藤智将 | 08) 建築基準法の「構造強度」に関する規定について、全体構成、概要、及び基本の調べ方がわかる。 |
| 教科書 | 建築関係法令集 | 09) 建築基準法の「構造強度」に関する規定のうち「基礎」については、「基礎」の項目のほかに「鉄筋コンクリート造」の項目も合わせて調べることができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建築基準法の「構造強度」に関する規定のうち「構造計算」の各項目について、それぞれの概要、及び原則・主な例外の読み取り方がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【82点】+毎週の課題提出により【18点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (4)(7) | |
| 備考 | 建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。 | |

一級建築士科目

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておく必要があります。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 「建築基準法」のうち、各種手続きに関わる「確認申請」「中間検査」「完了検査」「報告」「届出」や、「建築基準法以外の主な法」を取り上げ、概要を理解し、法令集で関連条文を調べることができるように学習します。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築法規 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築法規3 | 01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。 |
| 単位 | 2 | 02) 建築法規1、建築法規2の学習内容を振り返り、建築士試験の応用的問題が解けるようになる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 建築士法について、建築士と建築士事務所の業務等についてわかる |
| 回数 | 15 | 04) 都市計画法における、開発行為の許可、建築の許可、都市計画の手続きなどについて知る |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 消防法における、防火対象物、消防用設備についてわかる |
| 省庁分類 | - | 06) バリアフリー法について特定建築物の建築主などの基準適法義務などわかる |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 建築物省エネ法における建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律について知る。 |
| 作成者 | 佐藤智将 | 08) 耐震改修促進法について所有者の努力義務等、指導・助言・指示などについて知る |
| 教科書 | 建築関係法令集 | 09) 品格法における、住宅性能評価、瑕疵担保責任の特例、紛争処理などについて知る |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) その他の関係法令(建設業法、景観法、宅地造成および特定盛土等規制法、都市緑地法など)についてわかる |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|---------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 「建築設備」には、給排水・衛生設備、空調設備、電気設備などがあります。建築を計画するうえで「建築設備」は居住・利用する人にとって快適で利便性の高い生活環境を求めするために必要不可欠なものです。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 本講義では、「建築設備の概要」から「給排水衛生設備」、「空調設備」、「電気設備」について、建築技術者として、建築の計画・設計、施工を行う上で必要な知識を学んでいきます。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築設備 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設備2 | 01) 事務所ビルの建築設備、戸建住宅と集合住宅の建築設備の違いを区別することができる。 |
| 単位 | 2 | 02) 地球温暖化の主原因であるCO2の排出量について、部門別について考えることができる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 戸建て住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 集合住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 戸建て住宅の空調設備・換気設備を計画することができる。 |
| 省庁分類 | 22. ④建築設備 | 06) ビルの空調設備の主な空調方式とその特徴がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) ビルの空調設備の系統図・ダクト図・配管図・機械室ダクト図等を理解し説明することができる。 |
| 作成者 | 加藤論 | 08) 建物内の受変電設備の仕組みを理解することができる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築設備 | 09) 建物内の電気幹線設備・動力設備の特徴を理解することができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建物内の自家発電設備・蓄電池設備・照明設備・コンセント設備の特徴がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|---------------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 構造力学3では、様々な静定構造物に発生する反力より、応力を求め応力図を正確に描けるように繰り返し練習します。後半では静定トラス構造を学び、トラス構造における力の流れを理解します。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 構造力学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 構造力学2 | 01) 建築構造物を構造計算を行うために、正確にもモデル化できる。 |
| 単位 | 1 | 02) 静定構造物をつり合い条件式を用いて、反力計算ができる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 静定構造物の反力を元に、正確な荷重図作成ができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 静定構造物の荷重図より、各応力図(N図、Q図、M図)が作成できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) せん断力図(Q図)より、柱・梁においてせん断力が最も発生しているの位置がわかる。 |
| 省庁分類 | 23. ⑤構造力学 | 06) 曲げモーメント力図(M図)より、柱・梁において引張力が最も発生しているの位置・側がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) トラス構造の条件・構造のモデルがわかる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 08) トラス構造の種類・特性がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築構造力学 | 09) トラス構造物を節点つり合い法を用いて、力の流れを求め、部材の軸方向力と圧縮/引張の判断ができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) トラス構造物をリッターの切断法を用いて、力の流れを求め、部材の軸方向力と圧縮/引張の判断ができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | | |

一級建築士科目

| | | |
|-------|---------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれている。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 構造力学6では構造力学5により学んだ内容の復習と応用問題に取り組み、後半では振動・地震に着目し、「固有周期、振動モード、共振、応答スペクトル、減衰」や「終局耐力、全塑性モーメント、塑性ヒンジ」を学び建築物の破壊を理解、判断できるように学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 構造力学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 構造力学3 | 01) 断面2次モーメントを利用し、強軸と弱軸の方向を判別し、梁の適切な使用方向がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 断面係数を利用し、縁応力がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 応力度(垂直応力度、せん断応力度)を求めめるために、適切な計算式を組み立てることができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 梁のたわみ(量・角)を、荷重の種類、梁の形状より適切な公式を判断し、値を求めることができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 長柱の形状より座屈長さを求め、計算により弾性座屈荷重がわかる。 |
| 省庁分類 | 23. ⑤構造力学 | 06) 不特定構造物において、剛度を求め、剛比を元に分割モーメント、到達モーメントの値がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 不特定構造物のモーメント図が作図できる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 08) ラーメン構造における地震時の応力において、せん断力と曲げモーメントの関係がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築構造力学 | 09) 外力を受ける多層ラーメン構造において、各層に影響する層せん断力、各部材に掛かる負担がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建物モデル化し、振動による固有周期が計算によりわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 二級建築士の取得は建築の各分野の知識・技術の習得を確認し、公的に認定される資格である。設計・施工問わず建築に関わるものとして必須の資格である。2年間の知識・技術の確認と整理を行うために重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 二級建築士試験の実技(製図)に対応するため、木造とRC造、S造の基礎的な設計・製図を復習・整理します。ここまでの2年間の知識を設計製図にてまとめることで、知識と技術の確認を行いましょう学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習7 | 01) 設計条件を読み取り、求められている内容を正確に整理できる。 |
| 単位 | 1 | 02) 設計条件を読み取り、求められている規模・構造種別を正確に把握できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 設計条件を読み取り、求められている必要諸室・そのサイズを正確に理解し、エスキースできる。 |
| 回数 | 15 | 04) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした配置図/各階平面図が作図できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面図/立面図が作図できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 06) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面詳細図/矩計図/部材リストが作図できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした床伏図/小座伏図が作図できる。 |
| 作成者 | 佐藤剛 | 08) 設計製図に合わせた設計コンセプトが文章としてまとめ決められた文字数で作文できる。 |
| 教科書 | - | 09) 設計製図に合わせて、凡例や部材リストとして一覧に、条件に合わせた書き込みができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 設計製図に合わせて、必要な面積を求め、面積表として書き込みができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【60点】+最終完成作品の提出により【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 設計の実務経験がある教員が、複合建築に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|---------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築を計画するに当たっては、建築を取り巻く屋内外の環境(自然現象など)を知り、その効果を上手に取り入れて、より快適な空間の計画ができることが必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: この科目では光環境と温熱環境について学習します。光環境では視覚、照明、色彩について、温熱環境では温度と熱移動、室温と熱負荷、湿度と結露について学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 環境工学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 環境工学1 | 01) 視覚、照度と輝度などについてわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 昼光、人工照明、照明計画の概要についてわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 色の表示、表色、色の名称についてわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 熱の移動、熱が伝わるしくみ、熱伝達、熱伝導、熱貫流量についてわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 室温の変動、室内外への熱の出入り、断熱性能についてわかる。 |
| 省庁分類 | 21. ③建築環境工学 | 06) 湿度、結露についてわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) |
| 作成者 | 加藤諭 | 08) |
| 教科書 | 図解建築環境工学の知識 | 09) |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (4)(8)(9) | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|-------------------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性: 建築各部の積算ルール、並びに各部の名称を理解し、社会に出てから必要とされる積算方法を学ぶ事で、現場監督として必要な基礎力を身に付けることは重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 土工事・鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事から、仕上工事に渡る各部の名称と拾い出しのルールを理解し、各段階において何が求められ、どのように行動が必要かを学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築積算 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築積算 | 01) 建築工事費の階層構造と、各区分(直接工事費・純工事費・工事原価・工事価格)がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 数量積算基準(設計・所要・計画)や、計測単位がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 基礎と基礎梁、柱と梁や床版・壁との取合い、内外仕上の各区分がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 根伐の数量積算方法について学ぶ。深さと法幅・余幅の関係や、根伐基準レベルの考え方がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 床付け・砕石地業・捨てCONの計測や、埋戻し数量の積算方法がわかる。 |
| 省庁分類 | 34. ⑧建築生産 | 06) コンクリートの積算方法について学ぶ。鉄筋・鉄骨体積の割合や、開口部控除等がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 型枠の積算方法について学ぶ。先と後の関係や、控除基準がわかる。 |
| 作成者 | 白石越郎 | 08) 鉄筋の積算方法について学ぶ。各部名称、定着や余長、フックや継手等の配筋ルールがわかる。 |
| 教科書 | 基準にもとづく建築積算入門 | 09) 仕上の各区分について理解をし、内法寸法の基準と控除項目がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 内装の天井・壁・床の積算ルール及び、開口部の構成を理解した上で積算ルールがわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。 | |

一級建築士科目

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性：一級建築士の取得は建築の各分野の知識・技術の習得を確認し、公的に認定される資格である。設計・施工問わず建築に関わるものとして必須の資格である。2年間の知識・技術の確認と整理を行うために重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容：一級建築士試験の実技(製図)に対応するため、木造とRC造、S造の基礎的な設計・製図を復習・整理します。ここまでの2年間の知識を設計製図にてまとめることで、知識と技術の確認を行いもれなく学習します。 |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習8 | 01) 設計条件を読み取り、求められている内容を正確に整理できる。 |
| 単位 | 2 | 02) 設計条件を読み取り、求められている規模・構造種別を正確に把握できる。 |
| 履修時間 | 60 | 03) 設計条件を読み取り、求められている必要諸室・そのサイズを正確に理解し、エスキースできる。 |
| 回数 | 30 | 04) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした配置図/各階平面図が作図できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面図/立面図が作図できる。 |
| 省庁分類 | - | 06) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面詳細図/矩計図/部材リストが作図できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした床伏図/小座伏図が作図できる。 |
| 作成者 | 白井雅哲 | 08) 設計製図に合わせた設計コンセプトが文章としてまとめ決められた文字数で作文できる。 |
| 教科書 | 二建・一級建築士試験 設計製図テキスト | 09) 設計製図に合わせて、凡例や部材リストとして一覽に、条件に合わせた書き込みができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 設計製図に合わせて、必要な面積を求め、面積表として書き込みができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 前半課題の提出により【50点】＋後半課題の提出により【50点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 建築士としての実務経験がある教員が、建築士試験に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

一級建築士科目

| | | |
|-------|---------------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 一級建築士コース | 必要性：建築を計画するに当たっては、建築を取り巻く屋内外の環境(自然現象など)を知り、その効果を上手に取り入れて、より快適な空間の計画ができることが重要で、そのために環境工学の知識が必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容：温熱環境、室内空気環境、音環境について学習します。 |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 環境工学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 環境工学2 | 01) 温熱環境の6つの要因(気温、風速、湿度、放射温度、着衣量、代謝量)がわかる。 |
| 単位 | 1 | 02) 温熱環境指標の種類とその因子がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 太陽の位置、日照と日影の関係がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 室内汚染物質の発生源と影響、室内の環境基準値がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 必要換気量、自然換気、機械換気がわかる。 |
| 省庁分類 | 21. ③建築環境工学 | 06) 音の性質、単位、音のレベル(dB)、音の伝搬がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 室内の音、吸音、遮音、騒音、振動がわかる。 |
| 作成者 | 加藤諭 | 08) 建築設備における、ビルの空調設備の系統図・ダクト図・配管図・機械室ダクト図等を理解し説明することができる。 |
| 教科書 | 図説建築環境の知識 | 09) 建築設備における、集合住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建築設備における、建物内の自家発電設備・蓄電池設備・照明設備・コンセント設備の特徴がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | | |

履修科目履修単位表 通信 建築士専科 二級建築士+BIMコース 1年次
 2026年度入学生用
 東京テクニカルカレッジ

| 分類大 | 番号 | 必修選択 | 教育科目名 | 単位数 | 実務経験※1 | 備考 |
|----------|----|------|---------|-----|--------|----|
| 講義・演習科目 | 01 | ◎ | 建築概論 | 2 | ○ | |
| | 02 | ◎ | 建築計画1 | 2 | ○ | |
| | 03 | ◎ | 建築史 | 2 | ○ | |
| | 04 | ◎ | 建築設備1 | 2 | ○ | |
| | 05 | ◎ | 構造力学1 | 2 | ○ | |
| | 06 | ◎ | 建築一般構造1 | 2 | ○ | |
| | 07 | ◎ | 建築一般構造2 | 2 | ○ | |
| | 08 | ◎ | 建築材料 | 2 | ○ | |
| | 09 | ◎ | 建築施工1 | 2 | ○ | |
| | 10 | ◎ | 建築法規1 | 2 | ○ | |
| 実習・実験科目 | 01 | ◎ | 建築設計実習1 | 1 | ○ | |
| | 02 | ◎ | 建築設計実習2 | 2 | ○ | |
| | 03 | ◎ | 建築設計実習3 | 1 | ○ | |
| | 04 | ◎ | 建築設計実習4 | 1 | ○ | |
| | 05 | ◎ | 建築製図実習1 | 1 | ○ | |
| | 06 | ◎ | 建築製図実習2 | 1 | ○ | |
| | 07 | ◎ | 建築製図実習3 | 2 | ○ | |
| | 08 | ◎ | 建築製図実習4 | 2 | ○ | |
| 総必要履修単位数 | | | | 31 | | |
| 選択科目単位数 | | | | 0 | | |
| 総単位数 | | | | 31 | | |

◎…必修科目(当該学科の全学生が卒業までに必ず履修しなければならない科目)
 ○…選択必修科目(一群の選択科目の中から指定された科目数を選択して履修しなければならない科目)
 △…選択科目(学生が任意に選択して受講することができる科目)
 ※卒業に必要な履修単位数は「総必要単位数」欄に示された数である。
 ※1…実務経験ある教員担当科目

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性:これから学ぶ建築に関する各分野の基礎知識(計画・環境・設備・法規・構造・施工など)について、全体を俯瞰して概観し、効果的な学び方を身につける必要があります。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容:建築業界の全体像を概観し、業界で活躍するために必要な資格を把握するとともに、それらの資格を取得するための学習について考えます。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築概論 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築概論 | 01) 建築業界とそこで活躍するための資格、その資格を取得するための学習について把握する |
| 単位 | 1 | 02) 建築の歴史、その時代の社会性や歴史、思想、技術について学ぶ |
| 履修時間 | 30 | 03) 人体を基準とした単位や動作空間、計画する上での基本的な考え方がわかる |
| 回数 | 15 | 04) 実施設計に求められる項目(意匠図・構造図・設備図など)がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 建築物を構成する各種材料の種類と特長について体系的にわかる |
| 省庁分類 | 20.②建築計画 | 06) 各種構造形式の違いや特徴を理解する |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 衛生・空調・電気の3分野について理解を深める |
| 作成者 | 白石越郎 | 08) 工事監理と工程管理を知り、工事の流れを知り、監理と管理の違いがわかる。 |
| 教科書 | プロセスでわかる 住宅の設計・施工 | 09) 建築に求められる安全な構造のための基礎的な力学がわかる |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建ぺい率・容積率・道路や斜線制限などの基礎的な法規を理解する |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務に必要な実施設計・施工管理技術を教える必要があり、実施設計・施工管理経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 356建築科 | 必要性:建築の分野では立体物を平面上に表したり、逆に平面的な図面から立体物を読み取ることが建築技術者の基礎になります。正しい製図法を理解し適切な図面を描き分ける技術、図面を読み取る知識はとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容:手描き製図の道具の正確な使い方、製図法を学習します。立体物を展開図や透視図を描きながら理解を深め、階段の作図や模型の作成を通じてより建築的な作図を学習します。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習1 | 01) 平行定規・勾配定規・シャープペンシルなど製図道具を正しく使用できる。 |
| 単位 | 1 | 02) 三角スケールをもちいて尺度のある図面から正確な寸法がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 立体物を把握し三面図を作図できる。 |
| 回数 | 15 | 04) 立体物を把握し展開図を作図できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 立体物を把握し断面図を作図できる。 |
| 省庁分類 | 32.⑩その他 | 06) 展開図より立方体の模型を作成できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) アクソメトリックとアイソメトリックの違いが分かり、描き分けることができる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 08) 1点透視図法を知り、簡単な図形を1点透視図法で作図できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト/建築製図基本の基本 | 09) 2点透視図法を知り、簡単な図形を2点透視図法で作図できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記と実技試験による履修判定試験により【60点】+課題提出による習熟度チェックにより【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ①② | |
| 備考 | 実務に必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性:建築の分野では図面が共通の言語であり、正確に読み取り・作図できることが重要です。現在はCADを用いたデジタル製図が一般的であり、CADを道具として使いこなせることが建築業界では重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容:前半ではAutoCADの基本操作を前半で学び、後半では実際に木造住宅平面図のコピー課題を通して建築製図の基礎知識と木造住宅のルール、図面の読み取り方など建築製図の基礎知識・基礎技術を学びます。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習1 | 01) AutoCADの座標概念と作図空間の概念がわかる。 |
| 単位 | 1 | 02) 基本コマンドとその使い方がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) AutoCADのレイヤの概念がわかり、線の色、線の種類、線の太さの関係がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) CADによる効率的な作図方法を体験し、手描き製図には無い作図の特長をとらえる事ができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) CADで使われた色と印刷時の太さの関係がわかり、正しい表現で平面図が印刷できる。 |
| 省庁分類 | - | 06) |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) |
| 作成者 | 野上 和裕 | 08) |
| 教科書 | 基礎から学ぶ建築CAD/建築製図基本の基本/図と模型でわかる基礎 | 09) |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記と実技試験による履修判定試験により【90点】+課題提出による習熟度チェックにより【10点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ① | |
| 備考 | 実務に必要なCAD製図技術を教える必要があり、CAD製図経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性:建築業界に携わるものとして、寸法の知識、身体スケール、モジュール、人体行動の知識、動作空間など、寸法を意識的に観察し体験的に覚え、諸室に求められている機能を知ることが建築技術者としてとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容:寸法の歴史を知り、モジュール体験を知ること共に、各所室の必要な機能と大きさを学びます。図面を見るだけでなく実際に計測することで、体験的に寸法を身に付けるように学習します。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築計画 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築計画1 | 01) 建築計画に用いる寸法の種類、成り立ちを知り、それぞれの意味・違いがわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) ゾーニング、動線とは何なのか違いがわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 長い建築寿命の経済的仕組みを知り説明できる。 |
| 回数 | 15 | 04) 現在まで続いて来た寸法のシステム(規格)を知り日常的に読み解くことができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 教室実測し、寸法を確認しながら作図できる。 |
| 省庁分類 | 20.②建築計画 | 06) 実測した図面から、必要な計算(高さ・面積など)ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 独立住宅の中で室と動線がどの様に計画されているのかを図面から読み取り、説明できる。 |
| 作成者 | 矢原奈歌 | 08) 独立住宅の歴史的な作品と読み取り、特徴を説明できる。 |
| 教科書 | やさしい建築計画 | 09) 独立住宅の工法の種類を知り、どれが用いられているのかの判断ができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 集合住宅の特徴を把握する |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ④ | |
| 備考 | 実務に必要な設計・計画技術を教える必要があり、設計経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。安全で強固に建物を建てるために、各種構造種別の特徴を理解し最適な工法を知ることとはとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築一般構造 | 学習内容: 最初に、各種構造を学んでいく際に必要となる「基本的な言葉の意味」を学びます。その上で、各種構造の一つ目となる木質構造について、材料、接合部、構造概要など詳しく学んでいきます。 |
| 科目名 | 建築一般構造1 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 建築物を構成している要素がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 建築物に作用する外力と、その外力に対してどのような仕組みで耐えているのかわかる。 |
| 回数 | 15 | 03) 木質構造の概要と木質構造の種類がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 木材及び木質材料の材料特性がわかる。 |
| 省庁分類 | 24. ⑥建築一般構造 | 05) 木材の接合方法(継手、仕口)とその性能がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) 軸組の全体像と、各部位の名称がわかる。 |
| 作成者 | 清孝英 | 07) 小屋組の全体像と、各部位の名称がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築構造 | 08) 基礎の種類とその特徴がわかり、構造図から、どのような基礎であるか判断できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 地層の種類とその特徴がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 地盤調査の種類とその目的がわかり、その概要が説明できる。 |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | ④ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 実務で必要な木造技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となるもので、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとも重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 学習内容: 各部屋の寸法や機能を学習し必要な要素を適切に配置できることを目標に設計を学び、小規模な木造住宅の設計を行います。住宅を適切な表現方法により作図し、相手に自分の考えを伝えるためにまとめ上げます。 |
| 科目名 | 建築設計実習2 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) エスキースの意味と線の強弱を描き分けることができる。 |
| 履修時間 | 60 | 02) トイレを題材に部屋の計測を学び、設計において必要な寸法を見つけ出し測ることができる。 |
| 回数 | 30 | 03) トイレ・浴室・洗面脱衣室の基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 玄関・キッチン・喫室・クローゼットの基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 05) 階段の名称・寸法・形状を知り適切な階段の設計ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 06) 書斎・リビング・ダイニング・吹き抜けの基本的な寸法や要素を理解し、設計できる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 07) 駐車場・玄関アプローチなど外構の要素・寸法・繋がりを理解し、設計できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト | 08) 適切な寸法・室名の記入が行え、面積表など必要な書き込みを行いエスキース図面として作図できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 高さ関係の寸法を理解し、立面図・断面図を作図することができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | ③④ | 筆記試験による履修判定試験により【50点】+毎週の課題提出により【20点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 設計者として設計意図を建築に係わる人(施工・施工者など)に正確にわかりやすく、より魅力的に伝えることが求められます。そのためのCAD技術が必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 学習内容: AutoCADを主軸とし住宅の3次元表現を学びます。後半ではLayout等を使用し製図の為の技術や相手に見せることを意識したレイアウトを学習します。 |
| 科目名 | 建築製図実習2 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 1 | 01) 立体空間(幅、高さ、奥行き)がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) プリミティブを使用した基本操作ができる。 |
| 回数 | 15 | 03) 寸法を意識したエンティティを作成できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 配布図面を用いて、室内空間を作成することができる。 |
| 省庁分類 | - | 05) 配布図面を用いて、住宅の外観と内観のバースを作成することができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 06) エクステリアとインテリアを自分のプランとして簡易的ではあるがコーディネートすることができる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 07) プレゼンテーションボードを作成し、人へ伝える為の基本を習得することができる。 |
| 教科書 | 基礎から学ぶ建築CAD/建築製図基本の基本 | 08) |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | ①②④ | 筆記試験による履修判定試験により【60点】+毎週の課題提出により【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 実務で必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となるもので、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとも重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 学習内容: 前期の計画的要素に構造・法規の要素を追加して設計を行います。100㎡規模の設計課題に取り組み、様々な条件による住宅を提案し、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。 |
| 科目名 | 建築設計実習3 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 1 | 01) 住宅の必要諸室の一般サイズがわかり、構造を意識した柱・部屋の配置ができる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 住宅の必要諸室の用途がわかる程度の家具・設備を適切なサイズで作図できる。 |
| 回数 | 15 | 03) 面積計算(敷地面積・建築面積・床面積・延べ面積・建築率・容積率)ができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 斜線制限(道路・隣地・北側)を理解し、建てること可能な範囲を割り出すことができる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 05) 設計課題1: 斜線制限を意識した木造2階建て住宅を提案できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 06) 設計課題2: 高低差のある敷地における木造2階建て住宅を提案できる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 07) 設計課題3: 旗竿敷地における、販売を意識した高級木造2階建て住宅を提案できる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト | 08) スタディモデルを作成し、屋根や開口部の検討を行い、図面へのフィードバックができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 設計趣旨やイメージなど他人に正確に伝えるためにまとめ表現できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | ③④ | 筆記試験による履修判定試験により【50点】+毎週の課題提出により【20点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 設計者として設計意図を建築に係わる人(施主・施工者など)に正確にわかりやすく、より魅力的に伝えることが求められます。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 中規模の木造住宅を題材にした図面を基に、AutoCADによる表現をA3 1枚にまとめ、人に正確に魅力的に伝える手法を学びます |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習3 | 01) 平面図などを読み取り、断面図が作図できる |
| 単位 | 2 | 02) 断面図の外構と文字記入ができる |
| 履修時間 | 60 | 03) 断面図での寸法記入ができる |
| 回数 | 30 | 04) 屋根勾配の作成と切断位置がわかる |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 立面図の説明と他図面を利用した作図方法がわかる |
| 省庁分類 | | 06) 立面図での開口部と外壁面の仕上げが描ける |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 展開図の理解と作成方法がわかる |
| 作成者 | 野上和裕 | 08) 展開図の室内表現が描ける |
| 教科書 | 基礎から学ぶ建築CAD/建築製図基本の基本 | 09) |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【60点】+毎週の課題提出により【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (2)(4) | |
| 備考 | 実務に必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|-------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 「建築設備」には、給排水・衛生設備、空調設備、電気設備などがあります。建築を計画するうえで「建築設備」は居住・利用する人にとって快適で利便性の高い生活環境を求めするために必要不可欠なものです。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 「建築設備1」では、給排水・衛生設備、空調を中心に、建築計画する上で必要な給水設備、給湯設備、排水・通気設備、衛生器具設備、空調設備に関する知識について学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築設備 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設備1 | 01) 建築設備とは何か、建築設備の種類がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 給排水・衛生設備で取り扱う水の基本的な性質がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 給水設備計画で知っておくべき、給水方式、汚染防止、機材などがわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 排水・通気設備計画で知っておくべき、排水の種類、排水方式、トラップ、阻集器の役割などがわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 衛生器具設備(水受容器、給水器具、排水器具など)の種類がわかる。 |
| 省庁分類 | 22. ④建築設備 | 06) ガス設備における都市ガスと液化石油ガス(プロパンガス)の特徴がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 空調負荷の種類や顕熱負荷・潜熱負荷がわかる。 |
| 作成者 | 加藤諭 | 08) 空調負荷計算の方法がわかる。 |
| 教科書 | 図説建築設備の知識 | 09) 冷媒方式の種類と特徴がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 配管設備やダクト設備の概要がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (4)(8)(9) | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておく必要があります。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: 法令集を熟読するための原則や調べ方の手順を理解し、「建築基準法」のうち「全体構成」「用語の定義」「面積(建築率・容積率)・高さの定義」「道路」「用途地域」を取り上げ、概要の理解と関連条文を調べられるように学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築法規 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築法規1 | 01) 建築関係法令集にはどのような法が掲載されているのか、その概要がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 「法律・政令・省令」の関係がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) どの条文でも、それが「第何条・第何項・第何号」かを言うことができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 「または・かつ・いずれか」「以上・以下・超える・未満」などの意味を正しくとらえることができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 建築基準法の「用語の定義」の各項目について、正しい解釈がわかる。 |
| 省庁分類 | 28. ⑨建築法規 | 06) 建築基準法の「面積・高さの定義」の各項目について、正しい解釈がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 建築基準法の「建築率」について、この規定の意味と、基本の考え方がわかる。 |
| 作成者 | 佐藤智博 | 08) 建築基準法の「容積率」について、この規定の意味と、基本の考え方がわかる。 |
| 教科書 | 建築関係法令集 | 09) 建築基準法の「高さ制限」のうち「道路斜線制限・隣地斜線制限・北側斜線制限」についてわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建築基準法の「用途地域」について、なぜこれらの規定があるのかと、別表2の読み取り方がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【82点】+毎週の課題提出により【18点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (4)(7) | |
| 備考 | 建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。安全で強固に建物を建てるために、各種構造種別の特徴を理解し最適な工法を知ることはとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 学習内容: コンクリートはそれが実現できる建物規模に対して、比較的安価な材料であるといわれていますが、ひび割れ等の不具合も発生します。鉄筋コンクリート構造の特徴とメリット・デメリットについて学んでいきます。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築一般構造 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築一般構造2 | 01) 鉄骨構造の材料的発展及び構造計画の発展の歴史がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 鉄骨構造における各種構造形式がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 鉄骨構造のメリット・デメリットがわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 鋼材の種類や機械的性質の違いがわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 基準強度、許容応力度、降伏強度、引張強度、ヤング係数といった言葉の意味がわかる。 |
| 省庁分類 | 24. ⑥建築一般構造 | 06) 鉄筋コンクリートの発生から現代までの歴史がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 鉄筋コンクリート構造の特徴とメリット・デメリットがわかる。 |
| 作成者 | 清孝英 | 08) 鉄筋コンクリート構造の形式の種類が判別できる。 |
| 教科書 | 初学者的建築講座 建築構造 | 09) 鉄筋コンクリートを構成する材料がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) コンクリートの種類と、それぞれの注意点がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務に必要な鉄筋コンクリート造技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性:建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとも重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 学習内容:二級建築士の木造課題の範囲を理解し、要求図面を過不足なく設計・製図することが重要であり、時間管理と共に課題に合わせた回答を描き切る練習を行い、二級建築士実技試験に対応します。 |
| 科目名 | 建築設計実習4 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 1 | 01) 二級建築士の実技試験のルールを知り、求められる範囲がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 二級建築士の実技試験の課題の種類に対して、描き上げる図面の範囲がわかる。 |
| 回数 | 15 | 03) 課題文から求められている条件を元に、エスキースにて住宅の大きなサイズがわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 各階平面図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 省庁分類 | 31.①建築設計製図 | 05) 立面図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 06) 短計図(又は断面、部分詳細)に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 作成者 | 佐藤 剛 | 07) 2階床伏図・1階小屋伏図に求められる作図範囲を知り、自分の描き込み度合いを自己チェックできる。 |
| 教科書 | 2級建築士試験 設計製図テキスト | 08) 面積を正確に計算し、面積表が作成できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 計画の要点を整理、設計趣旨を所定の欄に指定された文字数の範囲で表現できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 時間管理を自分で行い、ペース配分の過不足を自分で判断できる。 |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | (3)(4)(5)(7) | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+毎週の課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 木造住宅設計の実務経験がある教員が、木造住宅の設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|-------------------------------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性:建築に関わる者として、建設現場における4大任務(品質管理・原価管理・工程管理・安全衛生管理)の意味を理解し、実社会での管理の在り方を知ることとはとても重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 建築施工 | 学習内容:4大任務の各内容の概要から一歩踏み込んだ所までを学びます。建設現場では日々どのような事を行い、どんな事に気を付けて管理をしなければいけないかを理解するための順序立てて学習します。 |
| 科目名 | 建築施工1 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 品質管理の目的・管理手法・品質管理の7つ道具がある事がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) P D C Aサイクルの意味・活用方法がわかる。 |
| 回数 | 15 | 03) 原価管理の目的・出来高と進捗度の関係がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) ゼネコンとサブコンとの間で取り交わしをする書類についてがどのようなものがあるのかわかる。 |
| 省庁分類 | 34.⑧建築生産 | 05) 工程管理の重要性・マイルストーンの押え方・原価管理との関係性がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) ネットワーク工程表の読み取り方・作図方法を学び、ネットワーク工程表を読み解くことができる。 |
| 作成者 | 杉本安雄 | 07) 建設現場における安全管理の重要性・その他の項目との関係性がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築施工 | 08) K Y K・T B M・新規入場者教育等、建設現場における安全管理の手法がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 一般建設業・特定建設業など、建設業法で定められる建設会社の制限・資格について違いがわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) モチベーション・モラル等、4大任務に追加する考えの「M」の内容・考え方がわかる。 |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | (4)(6) | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性:建築設計において、適切な材料を適切な部位に採用するためには、材料の美観性のみならず、物理的性能・性質についても正確な知識が必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 建築材料 | 学習内容:建築材料1では、建築の主要構造部を担う3大材料である木、コンクリート、鉄の基礎的知識について学びます。内外装材料の選択において、床・壁・天井とそれぞれの部位における材料の種類とその特徴を理解し、さらにはそれらの下地も含めた取り付け方法について学びます。 |
| 科目名 | 建築材料 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 木材及び木質構造の特徴がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 樹木の種類や主な用途、注意点がわかる。 |
| 回数 | 15 | 03) 木材の基本的性質(乾燥・収縮・変形・可燃)や物理的性質がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) コンクリート及び鉄筋コンクリート構造の特徴がわかる。 |
| 省庁分類 | 25.⑦建築材料 | 05) コンクリートを構成する材料及びコンクリートの種類がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) 断熱に対する要求性能に対しての適切な材料選定ができる。 |
| 作成者 | 又野寛子 | 07) 防火に対する要求性能に対しての適切な材料選定ができる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築材料 | 08) シックハウス対策における注意点がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 開口部材の各部位の名称がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) |
| 実務教員 | ○ | 評価方法 |
| 該当DP | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | 実務で必要な仕上げ材に関する知識・施工技術を教える必要があり、施工経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357.建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性:建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとも重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 構造力学 | 学習内容:構造力学1では、基本的な構造力学の考え方や、構造物や力の表現方法を学び、建築構造力学の共通言語を習得し、「モーメント」、「力の分解・合成」、「力の釣り合い」の計算方法を学習。後半から構造物内部に発生する「断面力(応力)」について学習します。 |
| 科目名 | 構造力学1 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 単位 | 2 | 01) 力学の必要性を理解し、構造物に加わる荷重の種類がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 02) 構造物を部材と節点に分解し荷重図としてモデル化できる。 |
| 回数 | 15 | 03) 「安定構造物・不安定構造物」「静定構造物・不静定構造物」の違いを理解し判別式より種類分けできる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 04) 荷重・力を理解し「ベクトル」として表現でき、作用点に発生するモーメントがわかる。 |
| 省庁分類 | 23.⑤構造力学 | 05) 荷重の位置、作用する位置を正確に把握し、作用点に発生するモーメントがわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 06) 「力の合成・分解」を図により求め、適切な大きさ・方向・位置の「合力・分力」がわかる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 07) 「力のつり合い条件式」を理解し、つり合うために必要な力がわかる。 |
| 教科書 | 建築構造力学 新版(初学者の建築講座) | 08) 構造物内に発生する断面力(応力)の種類がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 09) 断面力(応力)の正負の方向性を理解し、構造物内の力の流れがわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 10) 荷重図より、応力図(軸方向力・せん断力・曲げモーメント力)を作図できる。 |
| 実務教員 | - | 評価方法 |
| 該当DP | (4) | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 303. 建築科 | 必要性: 設計者として設計意図を建築に係わる人(施工・施工者など)に正確にわかりやすく、より魅力的に伝えることが求められる。そのために立体表現やボードへのまとめの技術が必要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 1年次 | 前期に設計した「住宅」を、敷地に対する全体計画、前面道路の扱い、住戸をはじめ専有部等複数の人が関わる部分を明確に分け表現する手法を学びます |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習4 | 01) 1期課題の整理と各自の図面のチェックを行い、構造・法規ともに適切かどうか判断できる。 |
| 単位 | 2 | 02) 設計条件・敷地条件を整理し、コンセプトの合わせたレイアウトとなるように仮レイアウトが作成できる。 |
| 履修時間 | 60 | 03) 各種図面を適切な縮尺でレイアウトし、仮印刷し、図面尺度が適切かどうか判断できる。 |
| 回数 | 30 | 04) 基礎周辺～1階床の部材を矩計図に求められる内容として作図できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 1階天井～2階床の部材を矩計図に求められる内容として作図できる。 |
| 省庁分類 | | 06) 2階天井～屋根の部材を矩計図に求められる内容として作図できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 切断壁や切断建具を矩計図に求められる内容として作図できる。 |
| 作成者 | 野上 和裕 | 08) 矩計図に求められる寸法・文字情報を過不足なく記入できる。 |
| 教科書 | - | 09) 矩計図の役割を知り、必要な描き込み量が変わる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 棒矩計図としての作図範囲とその意味がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【60点】+最終完成作品の提出により【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実務に必要な立体表現・プレゼンテーション技術を教える必要があり、プレゼンテーション経験のある実務家教員を担当させている。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 1年次に学習した木造住宅をベースにRC造の集合住宅の設計を行います。500㎡から1500㎡規模の集合住宅の設計課題に取り組み、共用部を意識した提案を行い、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習5 | 01) 鉄筋コンクリート構造を理解し、柱・梁のラーメン構造の仕組みがわかる。 |
| 単位 | 1 | 02) ラーメン構造と壁式構造の違いを理解し、適切な構造を選択できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 基本スパンより、柱・梁の断面を求められ、適切なスラブ厚がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 主要構造部材の存在を理解し、EVやボイド等作ることができない場所を判断できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 住戸計画より、適切なスパンを選択し、住戸・住棟の面積を算出できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 06) 廊下・バルコニー・避難、その他共有部を理解し、適切な寸法・距離を確保して設計できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 水回り、MB、PS、設備空間を理解し、無理のない寸法で設計できる。 |
| 作成者 | 佐藤剛 | 08) 集合住宅の敷地内に求められる、駐輪・駐車・ゴミ置き場等駐車分離を意識し適切な数量で設計できる。 |
| 教科書 | 建築設計テキスト 集合住宅/設計資料集 | 09) 課題1. 賃貸集合住宅+(クライアントの) 住宅を設計し、各種図面を作成し、提案できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 課題2. 賃貸集合住宅を設計し、各種図面を作成し、提案できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+毎週の課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 鉄筋コンクリート造の設計の実務経験がある教員が、鉄筋コンクリート造に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|-------------------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 施工管理の面で、「防水工事」や「土工工事」は、その内容が複雑で細心の注意を必要とするものであり、現段階でその概要や基礎的な知識を身に付けることは、今後の学習の理解を深める上でも非常に重要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: パワーポイントで作成された資料を基本として、各工事の概要・具体的な内容を解説すると共に、実際の現場でそれら各工事がどのような流れで計画され、施工されるのかを確認していきます。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築施工 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築施工2 | 01) 「屋上・防水工事」の種類や各工法がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 「屋根工事」の種類や各工法がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 実際の工事現場で、「土工工事」が時系列的にどのようなタイミングで施工されるのかがわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 施工管理業務の中で、「土工工事」の重要性がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 塗装、金属、内装、石・タイル工事等の「各仕上工事」の概要と詳細項目がわかる。 |
| 省庁分類 | 34. ⑧建築生産 | 06) 他工種(設備工事等の関連工事)との関係性がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 「土工工事」に関する現場での課題(問題)がわかる。 |
| 作成者 | 杉本安雄 | 08) 「設備工事」についての概要がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築施工 | 09) 「メンテナンス」や「瑕疵担保」に関する内容(概要)がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。一級・二級建築士の試験科目の1つであり、内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておくことが必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 前半では建築物の防火・耐火に関する規定を、後半は「居室」に関する事項など小規模建築物にも適用される規定を取り上げ、それぞれ概要を理解するとともに、法令集で関連条文を調べることができるように学習します。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築法規 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築法規2 | 01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。 |
| 単位 | 2 | 02) 建築基準法の「耐火・防火」については複数の規定があり、重複する場合は厳しい方に従うことができる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 建築基準法の「防火地域・準防火地域」に関する規定について、集団規定であること及びこの規定の意味がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 建築基準法の「耐火建築物等とすべき建築物」に関する規定について、単体規定であること、この規定の意味及び全体像がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 建築基準法の「地階の居室」「昇降」「便所」「天井の高さ」「床の防湿」「階段」に関する規定について、それぞれの規定の概要及び基本的考え方がわかる。 |
| 省庁分類 | 28. ⑨建築法規 | 06) 建築基準法の「確認申請」「中間検査」「完了検査」及び「建築主事」「指定確認検査機関」の意味とそれぞれの関係がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 建築基準法上、確認済証の取得が必要かどうかを判断ができる。 |
| 作成者 | 佐藤智将 | 08) 建築基準法の「構造強度」に関する規定について、全体構成、概要、及び基本の調べ方がわかる。 |
| 教科書 | 建築関係法令集 | 09) 建築基準法の「構造強度」に関する規定のうち「基礎」については、「基礎」の項目のほかに「鉄筋コンクリート造」の項目も合わせて調べることができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建築基準法の「構造強度」に関する規定のうち「構造計算」の各項目について、それぞれの概要、及び原則・主な例の読み取り方がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【82点】+毎週の課題提出により【18点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | ④⑦ | |
| 備考 | 建築実施設計の実務経験がある教員が、建築法規・建築関連法令の実務的テクニックを教える。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 設計者において、施工まで考えた図面とは意匠図とは異なり細かな表現が必要です。BIMの技術は立体的なモデルと同時に整合性の取れた図面が仕上がりより実務的なCAD製図であり、その知識技術は技術者として必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 前期に学習した内容を活用し、建築製図実習8にて設計したオフィス建築を題材にモデリング・設計図面への作り替えを行い、短時間で設計・製図技術の向上を目指し学習します。 |
| 期 | 1 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習5 | 01) 設計条件を敷地条件を整理し、モデリングが始めるようにデータ整理ができる。 |
| 単位 | 1 | 02) AutoCADにて、基本的な情報を作図し、モデリングの元のデータを簡単に作図できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) Revitでモデリングするための準備(敷地・通り芯・外壁・界壁・間仕切り壁・建具)ができる。 |
| 回数 | 15 | 04) Revitでモデリング(レベルの作成・2Dデータの挿入・各部分のモデリング・グループ化)ができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) Revitでモデリング(各部分の確認・修正・編集・設定)ができる。 |
| 省庁分類 | | 06) Revitでプレゼンテーション(マテリアル)の設定ができる。 |
| 授業形態 | 演習 | 07) Revitでプレゼンテーション(方角・場所・太陽)の設定ができる。 |
| 作成者 | 野上和裕 | 08) Revitでプレゼンテーション(パースビューの作成)の設定ができる。 |
| 教科書 | はじめてのRevit&Revit LT | 09) Revitでプレゼンテーション(家具を配置したショットパース)の設定ができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) Revitでプレゼンテーション(3Dビューを利用した外観パース)の設定ができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+モデリング課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実施設計の実務経験がある教員が、図面とBIM技術の活用と実務的テクニックを教える。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 建築分野において、設計図面は共通言語であり、関わる全ての人が共有する最も基本となる物で、意匠・構造・法規など正確に判断できなければいけない。建築に係わるものとして設計製図の技術・知識はとても重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: S造によるオフィス設計を行います。中規模から大規模の設計課題に取り組み、コア・共用部・賃貸部を収益率を意識した区分けを行い、実用的な提案を行い、設計趣旨を相手に伝えるために図面として仕上げます。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習6 | 01) 鉄骨造を理解し、柱・梁のラーメン構造の仕組みがわかる。 |
| 単位 | 1 | 02) 基本スパンより、柱・梁の断面を求められ、スラブ・外壁の取り付け方がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) オフィス建築の性能や多様スタイルにこたえられるフレキシブルな性能がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) オフィス建築の一般的なタイプ(コアの考え方)やレナブル比を求め、適切かどうか判断できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) オフィス建築の利用者の種類を知り、複数動線を考え、適切かどうか判断できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 06) オフィス建築に対してバリアフリー、ユニバーサルデザインの活用を考え、適切かどうか判断できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) オフィス建築の長期利用やメンテナンスを意識し、提案が適切かどうか判断できる。 |
| 作成者 | 佐藤剛 | 08) オフィス建築の非常時の安全性を意識し、避難経路などが適切かどうか判断できる。 |
| 教科書 | - | 09) 課題1. 中規模オフィス建築を設計し、各種図面を作図し、提案できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 課題2. 店舗併用の大規模オフィス建築を設計し、各種図面を作図し、提案できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+毎週の課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 設計の実務経験がある教員が、複合建築に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|-------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 「建築設備」には、給排水・衛生設備、空調設備、電気設備などがあります。建築を計画するうえで「建築設備」は居住・利用する人にとって快適で利便性の高い生活環境を求めするために必要不可欠なものです。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 本講義では、「建築設備の概要」から「給排水衛生設備」、「空調設備」、「電気設備」について、建築技術者として、建築の計画・設計、施工を行う上で必要な知識を学んでいきます。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築設備 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設備2 | 01) 事務所ビルの建築設備、戸建住宅と集合住宅の建築設備の違いを区別することができる。 |
| 単位 | 2 | 02) 地球温暖化の主原因であるCO2の排出量について、部門別について考えることができる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 戸建て住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 集合住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 戸建て住宅の空調設備・換気設備を計画することができる。 |
| 省庁分類 | 22. ④建築設備 | 06) ビルの空調設備の主な空調調和方式とその特徴がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) ビルの空調設備の系統図・ダクト図・配管図・機械室ダクト図等を理解し説明することができる。 |
| 作成者 | 加藤諭 | 08) 建物内の受変電設備の仕組みを理解することができる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築設備 | 09) 建物内の電気幹線設備・動力設備の特徴を理解することができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 建物内の自家発電設備・蓄電池設備・照明設備・コンセント設備の特徴がわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|-------------------------|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 構造力学3では、様々な静定構造物に発生する反力より、応力を求め応力図を正確に描けるように繰り返し練習します。後半では静定トラス構造を学び、トラス構造における力の流れを理解します。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 構造力学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 構造力学2 | 01) 建築構造物を構造計算を行うために、正確にもモデル化できる。 |
| 単位 | 1 | 02) 静定構造物をつり合い条件式を用いて、反力計算ができる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 静定構造物の反力を元に、正確な荷重図作成ができる。 |
| 回数 | 15 | 04) 静定構造物の荷重図より、各応力図(N図、Q図、M図)が作成できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) せん断力図(Q図)より、柱・梁においてせん断力が最も発生している位置がわかる。 |
| 省庁分類 | 23. ⑤構造力学 | 06) 曲げモーメント力図(M図)より、柱・梁において引張力が最も発生している位置・側がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) トラス構造の条件・構造のモデルがわかる。 |
| 作成者 | 野上和裕 | 08) トラス構造の種類・特性がわかる。 |
| 教科書 | 初学者の建築講座 建築構造力学 | 09) トラス構造物を節点つり合い法を用いて、力の流れを求め、部材の軸方向力と圧縮/引張の判断ができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) トラス構造物をリッターの切断法を用いて、力の流れを求め、部材の軸方向力と圧縮/引張の判断ができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 設計者において、施工まで考えた図面とは意匠図とは異なり細かな表現が必要です。BIMの技術は立体的なモデルと同時に整合性の取れた図面が仕上がりより実務的なCAD製図であり、その知識技術は技術者として必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 前期に学習した内容を活用し、建築製図実習8にて設計したオフィス建築を題材にモデリング・設計図面への作り替えを行い、短時間で設計・製図技術の向上を目指し学習します。 |
| 期 | 2 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習6 | 01) 設計条件を敷地条件を整理し、モデリングが始められるようにデータ整理ができる。 |
| 単位 | 2 | 02) Revitでプレゼンテーション(マテリアル)の設定ができる。 |
| 履修時間 | 60 | 03) Revitでプレゼンテーション(方角・場所・太陽)の設定ができる。 |
| 回数 | 30 | 04) Revitでプレゼンテーション(パースビューの作成)の設定ができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) Revitでプレゼンテーション(家具を配置したショットパース)の設定ができる。 |
| 省庁分類 | | 06) Revitでプレゼンテーション(3Dビューを利用したパース)の設定ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) Revitでファミリの作成 参照面の作成ができる。 |
| 作成者 | 野上和裕 | 08) Revitでファミリの作成 パラメーターの設定ができる。 |
| 教科書 | はじめてのRevit&Revit LT | 09) Revitでファミリの作成 プロジェクトへのロードができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) Revitでファミリの作成 マテリアルの設定ができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+モデリング課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実施設計の実務経験がある教員が、図面とBIM技術の活用と実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 二級建築士の取得は建築の各分野の知識・技術の習得を確認し、公的に認定される資格である。設計・施工問わず建築に関わるものとして必須の資格である。2年間の知識・技術の確認と整理を行うために重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 二級建築士試験の実技(製図)に対応するため、木造とRC造、S造の基礎的な設計・製図を復習・整理します。ここまでの2年間の知識を設計製図にてまとめることで、知識と技術の確認を行いもれなく学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築設計実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築設計実習7 | 01) 設計条件を読み取り、求められている内容を正確に整理できる。 |
| 単位 | 1 | 02) 設計条件を読み取り、求められている規模・構造種別を正確に把握できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 設計条件を読み取り、求められている必要諸室・そのサイズを正確に理解し、エスキースできる。 |
| 回数 | 15 | 04) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした配置図/各階平面図が作図できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面図/立面図が作図できる。 |
| 省庁分類 | 31. ①建築設計製図 | 06) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした断面詳細図/矩計図/部材リストが作図できる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) 設計条件を守ったエスキースより、必要な条件を満たした床伏図/小塵伏図が作図できる。 |
| 作成者 | 佐藤剛 | 08) 設計製図に合わせた設計コンセプトが文章としてまとめ決められた文字数で作文できる。 |
| 教科書 | - | 09) 設計製図に合わせて、凡例や部材リストとして一覧に、条件に合わせた書き込みができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 設計製図に合わせて、必要な面積を求め、面積表として書き込みができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【60点】+最終完成作品の提出により【40点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 設計の実務経験がある教員が、複合建築に関する設計・製図の実務的テクニックを教える。 | |

| | | |
|-------|-------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 建築を計画するに当たっては、建築を取り巻く屋内外の環境(自然現象など)を知り、その効果を上手に取り入れて、より快適な空間の計画ができることが必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: この科目では光環境と温熱環境について学習します。光環境では視覚、照明、色彩について、温熱環境では温度と熱移動、室温と熱負荷、湿度と結露について学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 環境工学 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 環境工学1 | 01) 視覚、照度と輝度などについてわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 星光、人工照明、照明計画の概要についてわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 色の表示、表色、色の名称についてわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 熱の移動、熱が伝わるしくみ、熱伝達、熱伝導、熱貫流量についてわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 室温の変動、室内外への熱の出入り、断熱性能についてわかる。 |
| 省庁分類 | 21. ③建築環境工学 | 06) 湿度、結露についてわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) |
| 作成者 | 加藤諭 | 08) |
| 教科書 | 図解建築環境工学の知識 | 09) |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | - | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | (4)(8)(9) | |
| 備考 | | |

| | | |
|-------|-------------------------------------|---|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 建築各部の積算ルール、並びに各部の名称を理解し、社会に出てから必要とされる積算方法を学ぶ事で、現場監督として必要な基礎力を身に付けることは重要である。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 土工事・鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事から、仕上工事に渡る各部の名称と拾い出しのルールを理解し、各段階において何が求められ、どのように行動が必要かを学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築積算 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築積算 | 01) 建築工事費の階層構造と、各区分(直接工事費・純工事費・工事原価・工事価格)がわかる。 |
| 単位 | 2 | 02) 数量積算基準(設計・所要・計画)や、計測単位がわかる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) 基礎と基礎梁、柱と梁や床版・壁との取合い、内外仕上の各区分がわかる。 |
| 回数 | 15 | 04) 根伐の数量積算方法について学ぶ。深さと幅・余幅の関係や、根伐基準レベルの考え方がわかる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) 床付け・砕石地業・捨てCONの計測や、埋戻し数量の積算方法がわかる。 |
| 省庁分類 | 34. ③建築生産 | 06) コンクリートの積算方法について学ぶ。鉄筋・鉄骨体積の割合や、開口部控除等がわかる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・講義 | 07) 型枠の積算方法について学ぶ。先との関係や、控除基準がわかる。 |
| 作成者 | 白石越郎 | 08) 鉄筋の積算方法について学ぶ。各部名称、定着や余長、フックや継手等の配筋ルールがわかる。 |
| 教科書 | 基準にもとづく建築積算入門 | 09) 仕上の各区分について理解をし、内法寸法の基準と控除項目がわかる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) 内装の天井・壁・床の積算ルール及び、開口部の構成を理解した上で積算ルールがわかる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 施工管理の実務経験がある教員が、施工に関する実務的テクニックを教える。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 設計者において、施工まで考えた図面とは意匠図とは異なり細かな表現が必要です。BIMの技術は立体的なモデルと同時に整合性の取れた図面が仕上がりより実務的なCAD製図であり、その知識技術は技術者として必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 前期に学習した内容を活用し、建築製図実習8にて設計したオフィス建築を題材にモデリング・設計図面への作り替えを行い、短時間での設計・製図技術の向上を目指し学習します。 |
| 期 | 3 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習7 | 01) 設計条件を敷地条件を整理し、モデリングが始められるようにデータ整理ができる。 |
| 単位 | 1 | 02) AutoCADにて、基本的な情報を作図し、モデリングの元のデータを簡単に作図できる。 |
| 履修時間 | 30 | 03) Revitでモデリングするための準備(敷地・通り芯・外壁・界壁・間仕切り壁・建具)ができる。 |
| 回数 | 15 | 04) Revitでモデリング(レベルの作成・2Dデータの挿入・各部分のモデリング・グループ化)ができる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) Revitでモデリング(各部分の確認・修正・編集・設定)ができる。 |
| 省庁分類 | | 06) Revitでプレゼンテーション(マテリアル)の設定ができる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) Revitでプレゼンテーション(方角・場所・太陽)の設定ができる。 |
| 作成者 | 野上和裕 | 08) Revitでプレゼンテーション(パースビューの作成)の設定ができる。 |
| 教科書 | はじめてのRevit&Revit LT | 09) Revitでプレゼンテーション(家具を配置したショットパース)の設定ができる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) Revitでプレゼンテーション(3Dビューを利用した外観パース)の設定ができる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+モデリング課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実施設計の実務経験がある教員が、図面とBIM技術の活用と実務的テクニックを教える。 | |

CAD・BIM科目

| | | |
|-------|---|--|
| 系 | 建築・インテリア系 | シラバス(概要)⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 |
| 科 | 357. 建築士専科 二級建築士+BIMコース | 必要性: 設計者において、施工まで考えた図面とは意匠図とは異なり細かな表現が必要です。BIMの技術は立体的なモデルと同時に整合性の取れた図面が仕上がりより実務的なCAD製図であり、その知識技術は技術者として必要です。 |
| 年度 | 2026年度 | |
| 学年 | 2年次 | 学習内容: 前期に学習した内容を活用し、建築製図実習8にて設計したオフィス建築を題材にモデリング・設計図面への作り替えを行い、短時間での設計・製図技術の向上を目指し学習します。 |
| 期 | 4 | |
| 教科名 | 建築製図実習 | 科目目標(わかる目標・できる目標)⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 |
| 科目名 | 建築製図実習8 | 01) 設計条件を敷地条件を整理し、モデリングが始められるようにデータ整理ができる。 |
| 単位 | 1 | 02) AutoCADにて、基本的な情報を作図し、モデリングの元のデータを簡単に作図できる。 |
| 履修時間 | 60 | 03) Revitでモデリング 事例1 住宅設計図から3Dモデリングができる。 |
| 回数 | 30 | 04) Revitでモデリング 事例2 住宅設計図から外観パースを作成できる。 |
| 必修・選択 | 必修 | 05) Revitでモデリング 事例3 住宅設計図から内観パースを作成できる。 |
| 省庁分類 | - | 06) Revitでモデリング 事例4 課題で考えた設計案をRevitで作成し、プレゼンテーションできる。 |
| 授業形態 | オンデマンド・実習 | 07) Revitでモデリング 事例5 ファズワース邸を作成できる。 |
| 作成者 | 野上和裕 | 08) Revitでモデリング 事例6 敷地案内図から周辺地域のモデリングを作成する。 |
| 教科書 | はじめてのRevit&Revit LT | 09) Revitでモデリング 事例7 設備計画・配管計画を作成できる。 |
| 確認者 | 白石越郎 | 10) Revitでモデリング 事例8 鉄筋が配筋された施工詳細概念図を作成できる。 |
| 最終確認者 | 甲田 竜雄 | 評価方法 |
| 実務教員 | ○ | 筆記試験による履修判定試験により【40点】+モデリング課題提出により【30点】+最終完成作品の提出により【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。 |
| 該当DP | - | |
| 備考 | 実施設計の実務経験がある教員が、図面とBIM技術の活用と実務的テクニックを教える。 | |